



2024年3月期 第2四半期 決算説明会資料

日本発条株式会社(東証プライム市場 5991)
NHK Spring Co., Ltd.(5991/TSE Prime Market)

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

24.3期 第2四半期 決算概要

24.3期 業績予想概要

代表取締役副社長
CFO

吉村 秀文

24.3期 第2四半期 実績

(億円)

	23.3期 上期実績	24.3期 上期		増 減	
		5月時点予想	実績	対前年同期	対5月予想
売上高	3,326	3,450	3,621	295	171
営業利益	172	80	79	△93	△0
営業利益率	5.2%	2.3%	2.2%	△3.0%	△0.1%
経常利益	279	110	187	△92	77
経常利益率	8.4%	3.2%	5.2%	△3.2%	2.0%
親会社株主に帰属する四半期純利益	198	60	143	△55	83
特別損益	-	-	13	13	13
平均為替レート					
US \$	133.5	130.0	141.3	7.9	11.3
タイバーツ	3.6	3.8	3.9	0.3	0.1
上期末為替レート					
US \$ (当期)	144.8	130.0	149.6	4.8	19.6
(前期)	122.4	133.5	133.5	11.1	-
タイバーツ (当期)	3.9	3.8	4.1	0.2	0.3
(前期)	3.4	3.8	3.8	0.4	-

営業利益の変動要因分析

(億円)

	23.3期	24.3期上期		対前年同期 増減	対5月予想 増減
	上期実績	5月時点予想	実績		
売上高	3,326	3,450	3,621	295	171
営業利益	172	80	79	△93	△0
営業利益率	5.2%	2.3%	2.2%	△3.0%	△0.1%

▽対前年同期実績

売上の増加のうち、4割は円安による在外子会社の円換算影響、3割は鋼材高騰分の販売価格への反映等であり、為替と材料市況変動の影響を大きく受けた。

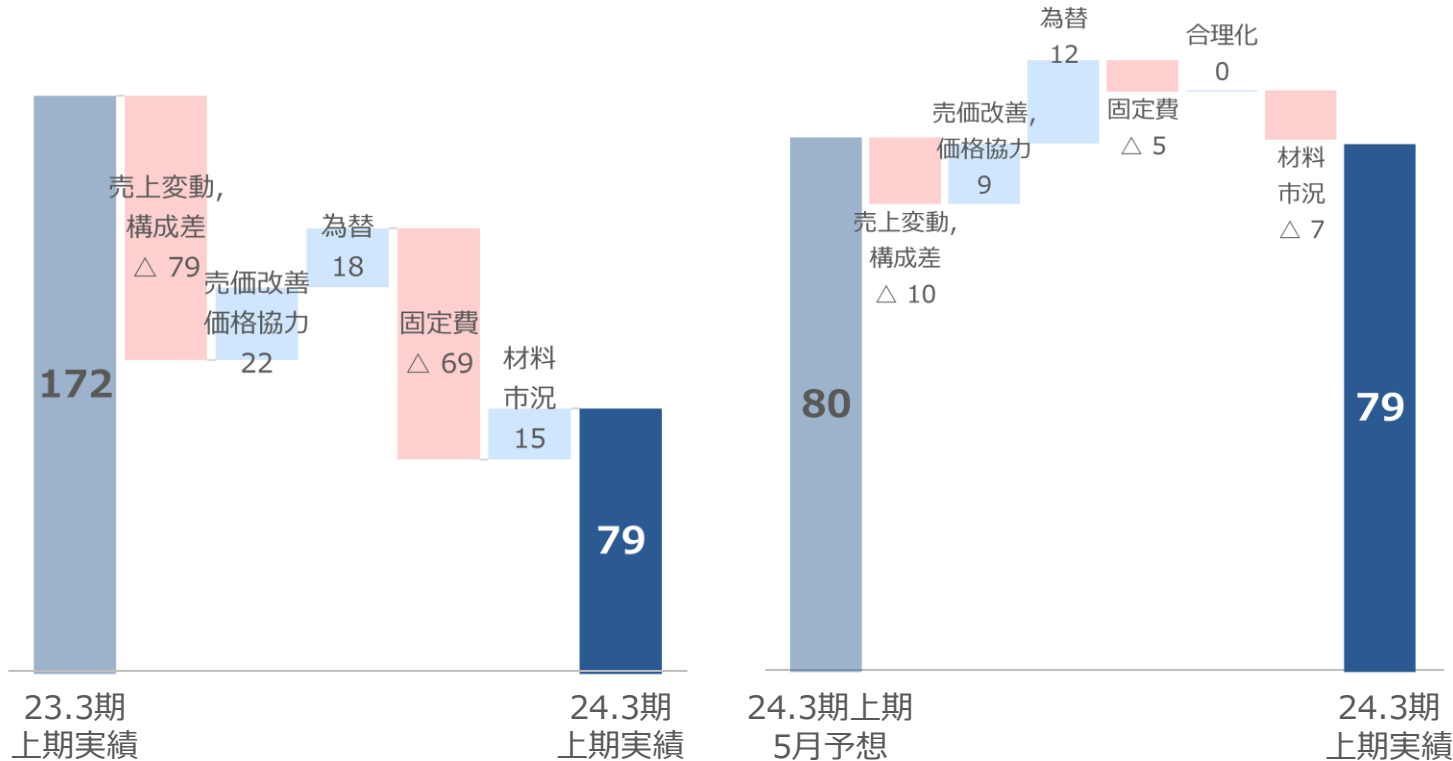
半導体供給不足による自動車メーカーの生産調整からの持ち直しの動きが見られ、自動車関連事業は増収傾向で推移。

一方、前年上期まで好調に推移したHDD関連事業および半導体プロセス部品事業の数量減により、営業利益は前年実績を下回った。

▽対5月時点予想

シート事業の台数増や円安による押上効果はあったものの、相対的に利益率の高いHDD関連事業の想定以上の数量減が影響し、当初業績予想並みの営業利益となった。

変動要因分析 (対前年上期 / 5月予想 増減)



24.3期 通期予想

(億円)

	23.3期 実績	24.3期		増 減	
		5月時点予想	今回予想	対前期	対5月予想
売上高	6,932	7,500	7,600	667	100
営業利益	288	350	270	△18	△80
営業利益率	4.2%	4.7%	3.6%	△0.6%	△1.1%
経常利益	373	400	400	26	—
経常利益率	5.4%	5.3%	5.3%	△0.1%	△0.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	215	250	250	34	—
特別損益	△70	—	13	83	13
平均為替レート					
US \$	135.0	130.0	143.0	8.0	13.0
タイバーツ	3.7	3.8	4.0	0.3	0.2
期末為替レート					
US \$ (当期)	133.5	130.0	145.0	11.5	15.0
(前期)	122.4	133.5	133.5	-	-
タイバーツ (当期)	3.8	3.8	4.0	0.2	0.2
(前期)	3.4	3.8	3.8	-	-

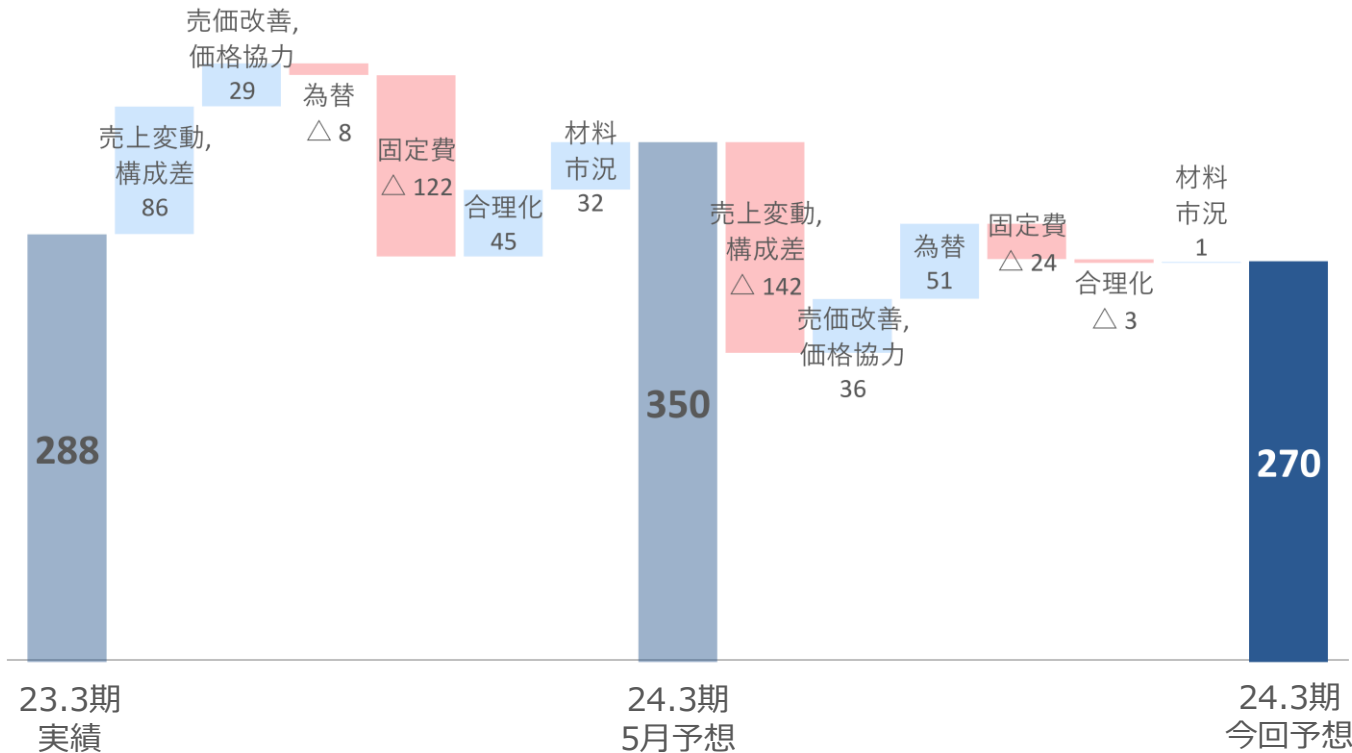
営業利益の変動要因分析

	23.3期 実績	24.3期		対前期 増減	対5月予想 増減
		5月時点予想	今回予想		
売上高	6,932	7,500	7,600	667	100
営業利益	288	350	270	△18	△80
営業利益率	4.2%	4.7%	3.6%	△0.6%	△1.1%

▽対5月時点予想

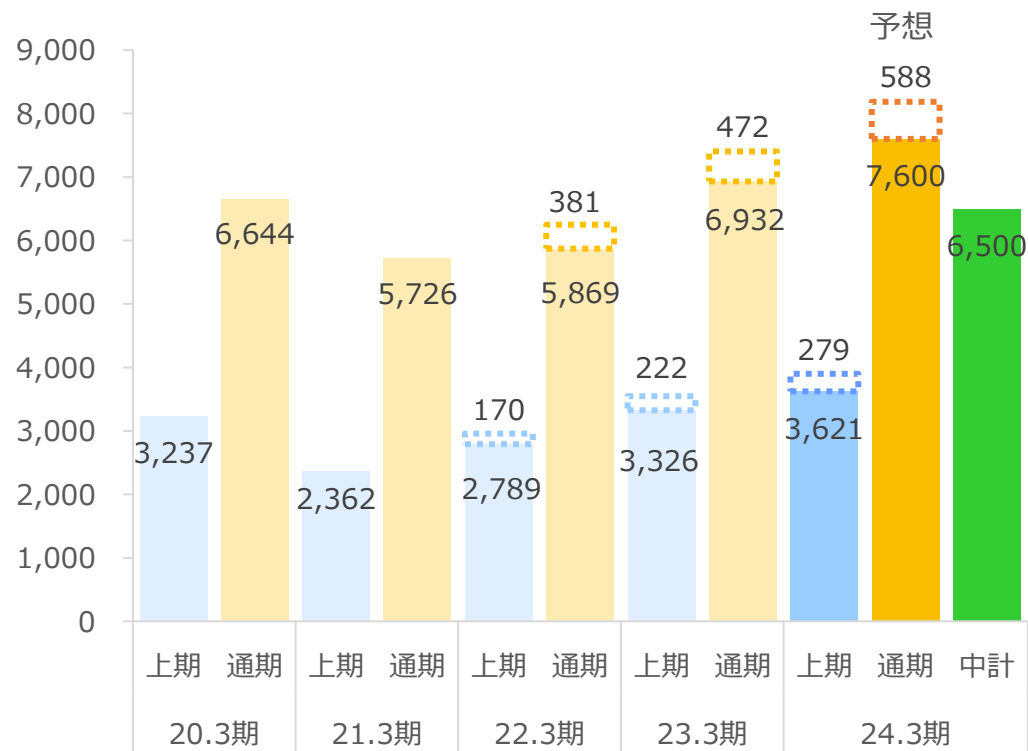
シート事業の台数増や円安による押上効果は寄与するものの、相対的に利益率の高いHDD関連事業および半導体プロセス部品事業の数量減影響が大きく、グループ全体では増収減益となる見通し。

変動要因分析



売上高

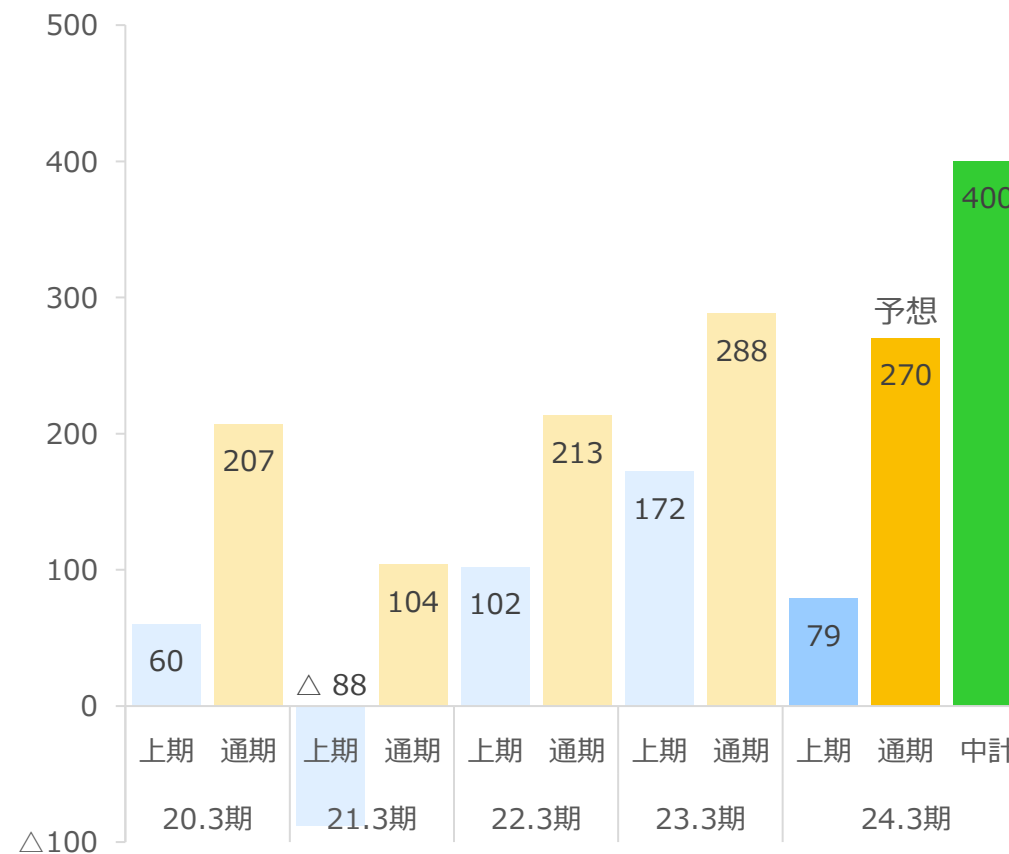
(億円)



『収益認識に関する会計基準（改正企業会計基準第29号）』の適用により、従来は売上高として計上していた顧客からの有償支給額を、2022年3月期より売上原価と相殺表示しております。

営業利益

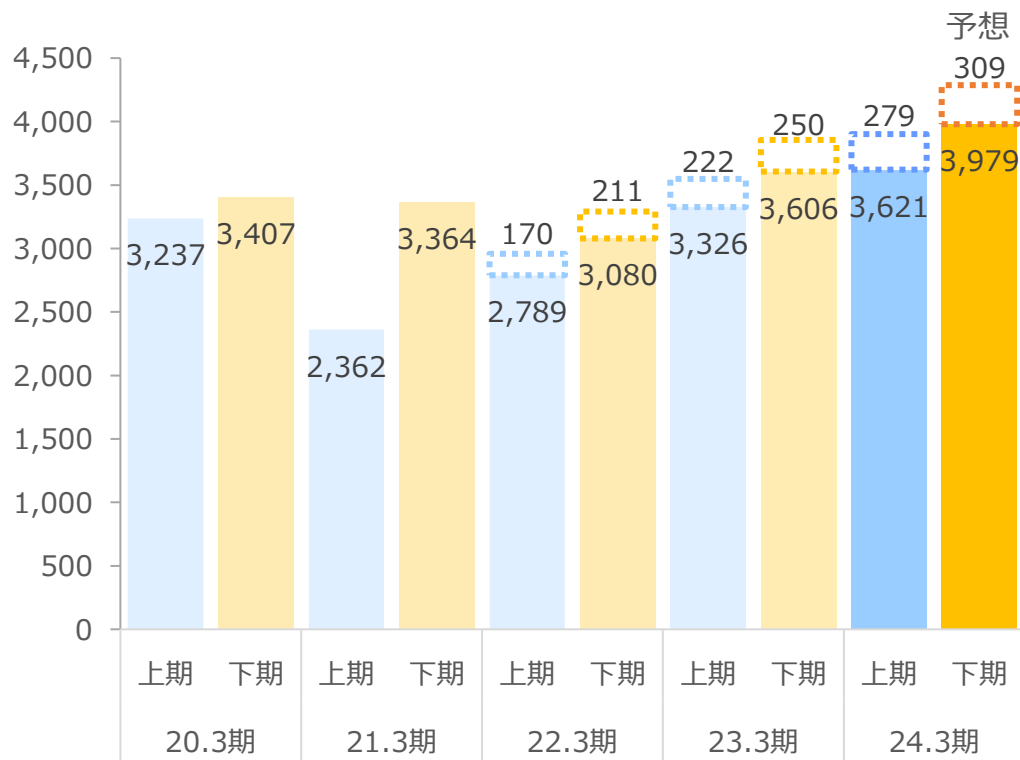
(億円)



業績推移（半期ベース）

売上高

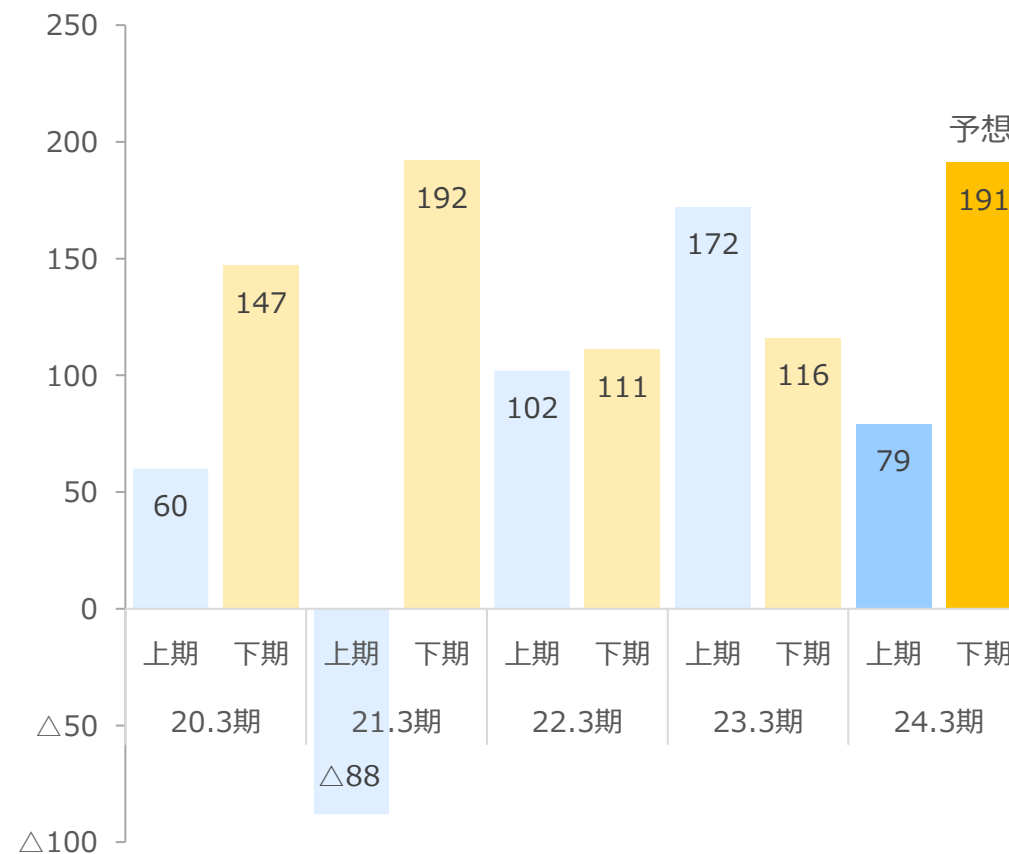
(億円)



『収益認識に関する会計基準（改正企業会計基準第29号）』の適用により、従来は売上高として計上していた顧客からの有償支給額を、2022年3月期より売上原価と相殺表示しております。

営業利益

(億円)



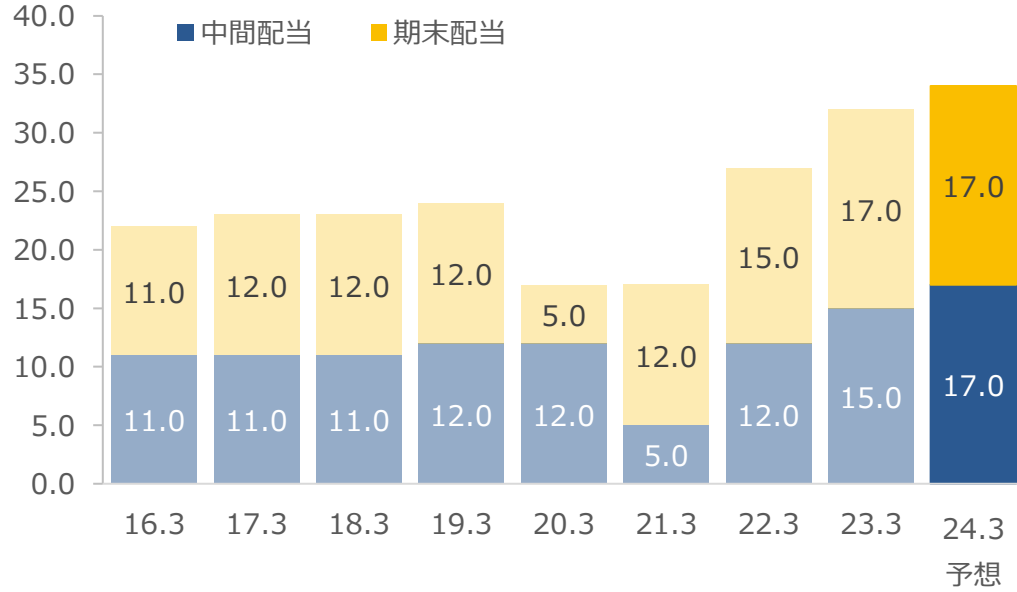
特別利益・特別損失

特別損益 主な内訳

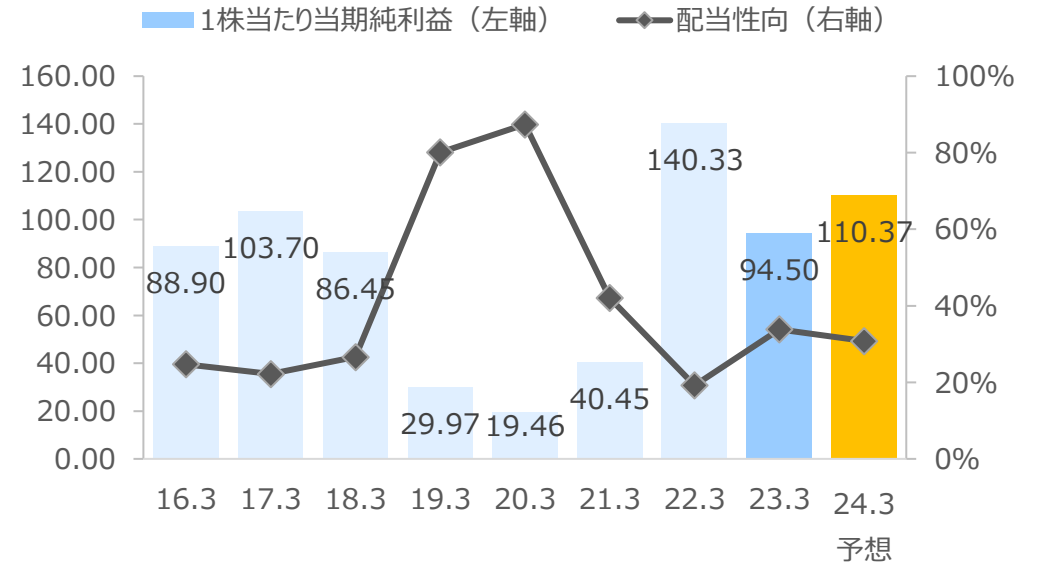
(億円)

科目	内容		金額
特別利益	投資有価証券売却益	株式の売却益	13
	計		13

1株当たり配当額



1株当たり当期純利益



	第2四半期末	期末	合計	配当性向
23.3期 実績	15.0円	17.0円	32.0円	33.9%
24.3期 予想	17.0円	17.0円	34.0円	30.8%

24.3期 第2四半期 決算詳細

セグメント別の売上高・営業利益の状況

(億円)

		23.3期 上期実績	24.3期上期		対前年同期 増減	対5月予想 増減
			5月時点予想	実績		
■ 懸架ばね	売上高	681	754	786	104	32
	営業利益	△17	△8	△35	△17	△27
	営業利益率	△2.6%	△1.1%	△4.5%	△1.9%	△3.4%
■ シート	売上高	1,247	1,426	1,555	307	129
	営業利益	25	40	77	51	37
	営業利益率	2.1%	2.8%	5.0%	2.9%	2.2%
■ 精密部品	売上高	840	736	747	△92	11
	営業利益	98	19	6	△91	△12
	営業利益率	11.7%	2.6%	0.9%	△10.8%	△1.7%
■ 産業機器ほか	売上高	556	534	532	△23	△1
	営業利益	66	29	31	△35	2
	営業利益率	11.9%	5.4%	5.8%	△6.1%	0.4%
合計	売上高	3,326	3,450	3,621	295	171
	営業利益	172	80	79	△93	△0
	営業利益率	5.2%	2.3%	2.2%	△3.0%	△0.1%

▽対前年実績

自動車関連事業は、一部、中国拠点の数量減はあったものの、全体的には半導体供給不足による自動車メーカーの生産調整からの持ち直しの動きが見られ、増収傾向となった。また、円安進行による在外子会社の円換算影響や、鋼材価格高騰分の販売価格への反映などもあり売上は大きく増加した。

非自動車関連事業は、円安による利益の押し上げはあったものの、前年下期から続くHDD市場の減速や、半導体プロセス部品の受注減が影響し、減収減益となった。

▽対5月時点予想

自動車関連事業では、特にシート事業を中心に増収となったものの、北米懸架ばね事業の人件費・動力光熱費等の高騰や鋼材高騰影響の回収遅れ、および利益率の高いHDD関連事業の減収により、当初予想並みの営業利益に着地した。

地域別の売上高・営業利益の状況

(億円)

		23.3期 上期実績	24.3期上期		対前年同期 増減	対5月予想 増減
			5月時点予想	実績		
●日本	売上高	1,842	1,990	2,084	241	94
	営業利益	123	55	84	△39	29
	営業利益率	6.7%	2.8%	4.0%	△2.7%	1.3%
●アジア	売上高	948	890	896	△52	6
	営業利益	74	36	36	△38	0
	営業利益率	7.9%	4.0%	4.1%	△3.8%	0.0%
●米欧ほか	売上高	534	570	640	106	70
	営業利益	△25	△11	△40	△14	△29
	営業利益率	△4.8%	△1.9%	△6.4%	△1.5%	△4.4%
合計	売上高	3,326	3,450	3,621	295	171
	営業利益	172	80	79	△93	△0
	営業利益率	5.2%	2.3%	2.2%	△3.0%	△0.1%

▽対前年実績

日本は、シート事業を中心に自動車関連事業で増収となったものの、高い利益率のHDD関連事業及び半導体プロセス部品事業の数量減により、前年比では増収減益となった。

アジアは、中国における日系自動車メーカー向け製品の受注減と、タイ・中国のHDD関連部品の受注減により減収減益となった。

米欧ほかは、北米自動車市場の回復と円換算影響により増収となったが、人件費やエネルギーコスト等の固定費増が利益を押し下げた。

▽対5月時点予想

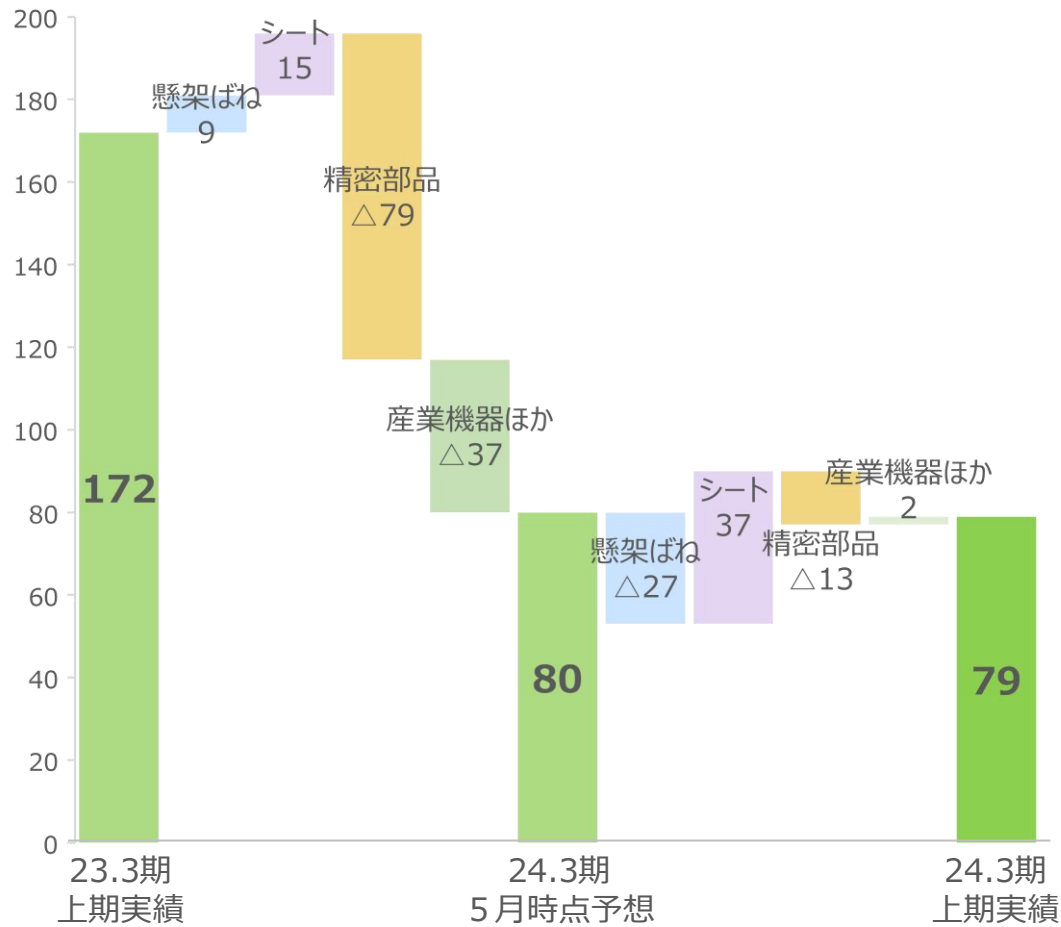
日本は、HDD関連事業は数量減となったものの、円安による押上効果と、シート事業をはじめとした自動車関連事業の好調により増収増益となった。

米欧ほかは、人件費・エネルギーコスト等の上昇に加え、鋼材高騰影響の回収遅れにより減益となった。

営業利益のセグメント別推移

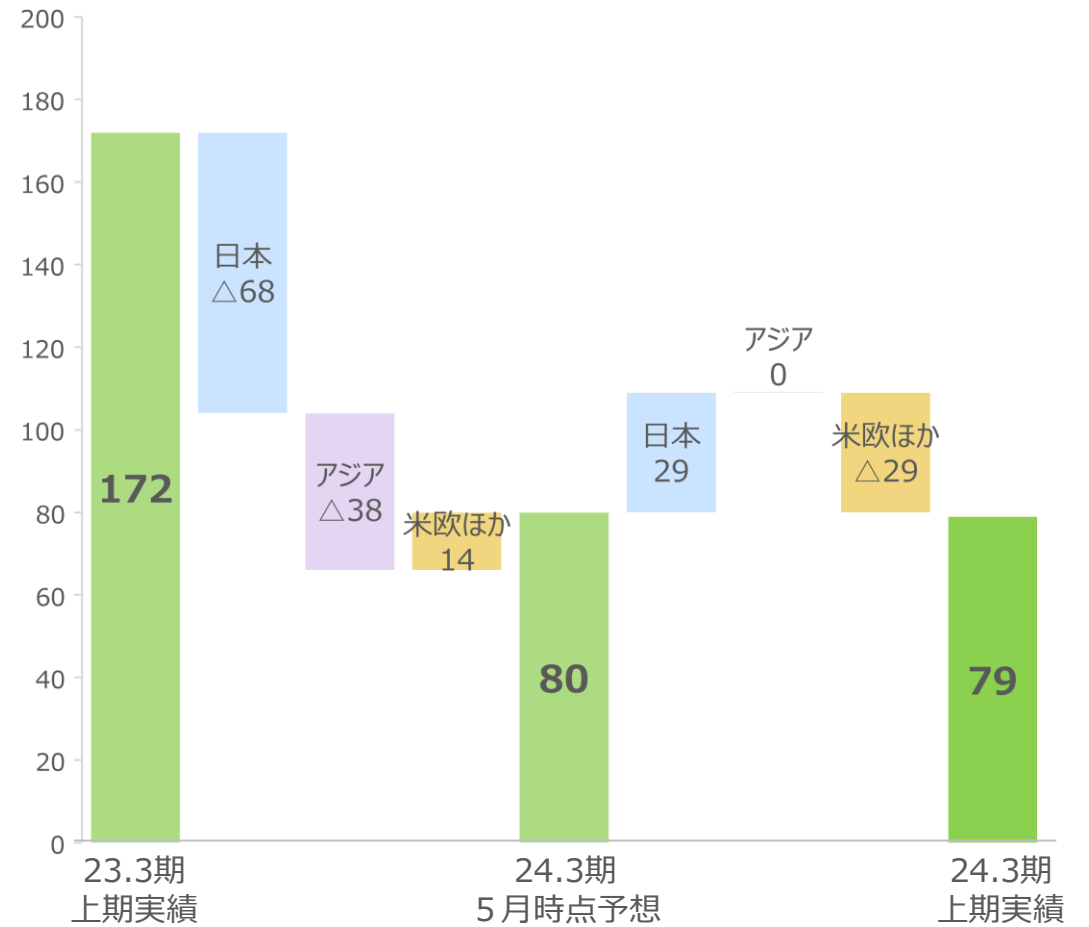
事業セグメント別

(億円)



地域セグメント別

(億円)



セグメント分析：懸架ばね

	23.3期 上期実績	24.3期上期		対前年同期 増減	対5月予想 増減
		5月時点予想	実績		
売上高	681	754	786	104	32
営業利益	△17	△8	△35	△17	△27
営業利益率	△2.6%	△1.1%	△4.5%	△1.9%	△3.4%

▽対前期実績

半導体不足影響が緩和し、国内事業は総じて数量増の傾向となった。

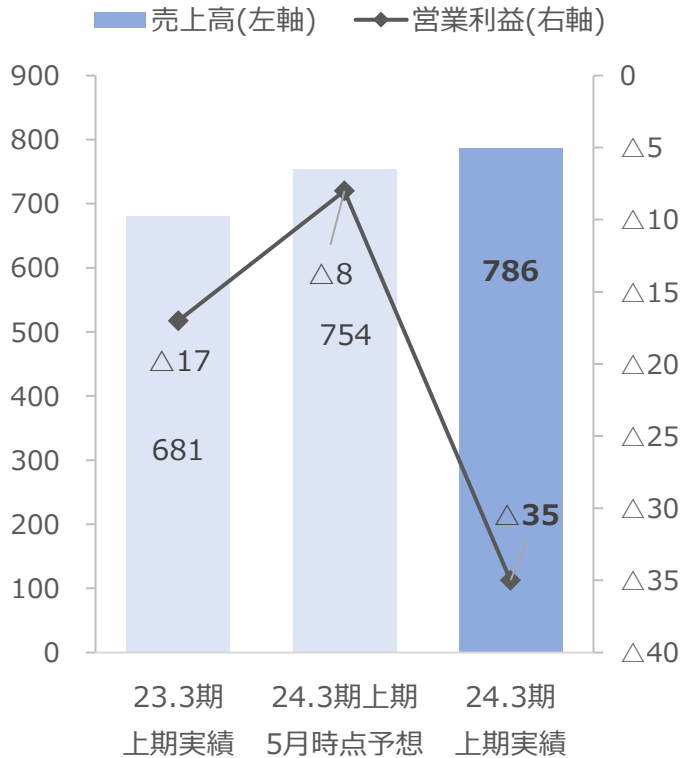
米欧事業も、為替換算の影響等により増収となったが、労働市場ひっ迫による人件費高騰、人材が定着しない事による生産性の悪化、及び動力光熱費等の固定費増の影響を受けて減益となった。

▽対5月時点予想

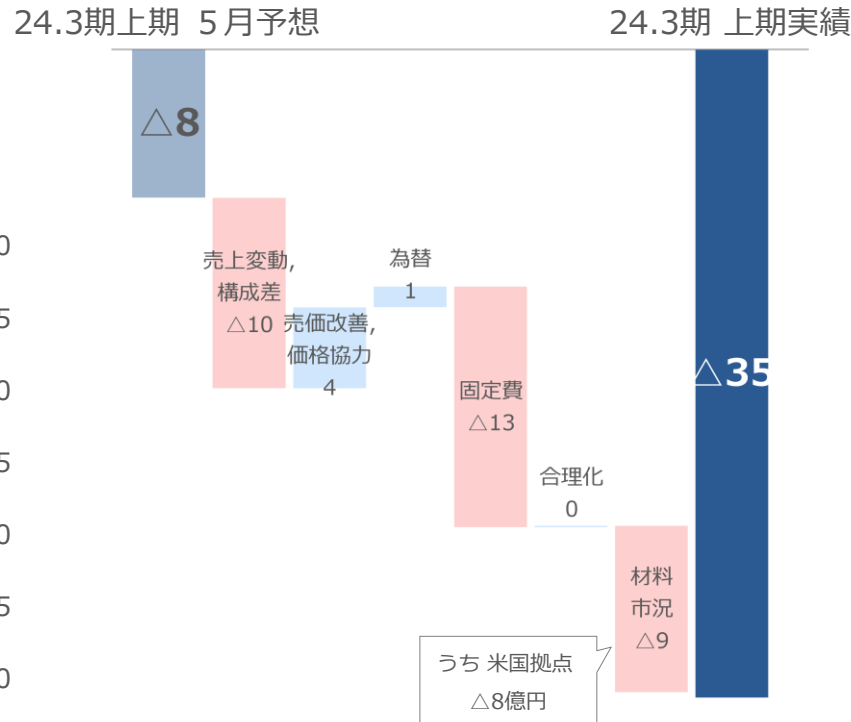
売上は、在外子会社の換算等の影響で当初予想に対し増収となった。

損益面では、北米事業の生産性改善遅れに伴う費用増や鋼材高騰影響の回収遅れ、及び中国における日系自動車メーカー向け製品受注の落ち込みの影響が重なり、増収減益となった。

業績推移



営業利益の変動要因分析



セグメント分析：シート

	23.3期 上期実績	24.3期上期		対前年同期 増減	対5月予想 増減
		5月時点予想	実績		
売上高	1,247	1,426	1,555	307	129
営業利益	25	40	77	51	37
営業利益率	2.1%	2.8%	5.0%	2.9%	2.2%

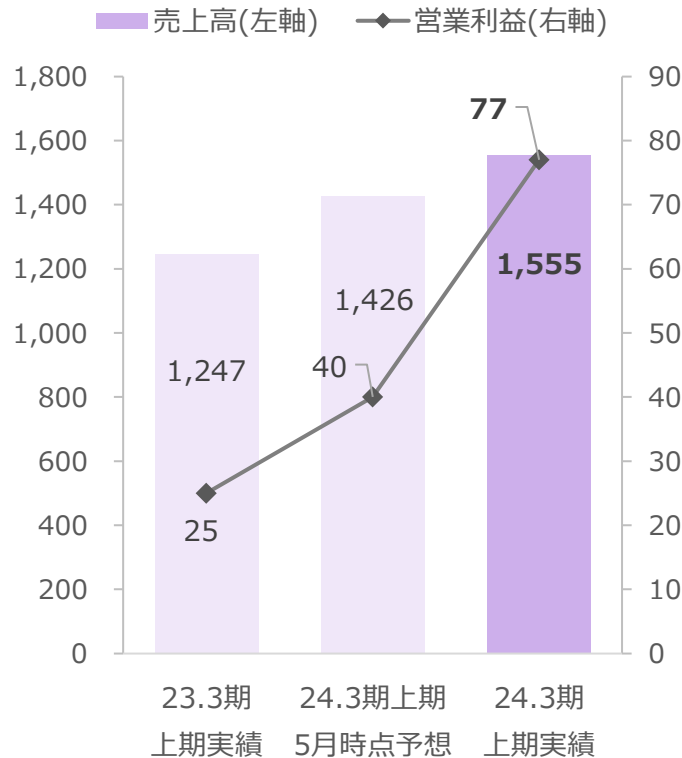
▽対前期実績

半導体不足による生産台数減影響は概ね解消され、SUBARU・トヨタ・日産を中心に台数回復。円安による在外子会社の円換算額の増加等もあり大幅な増収増益となった。

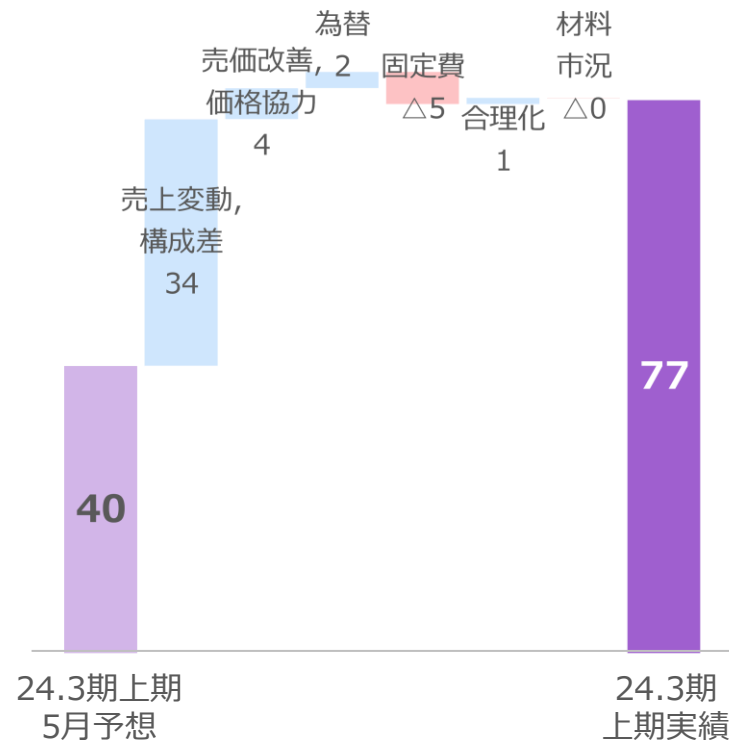
▽対5月時点予想

中国市場や国内の一部客先向けでは想定台数に達しなかったものの、日米のSUBARUビジネスが想定以上に好調に推移し増収増益となった。

業績推移



営業利益の変動要因分析

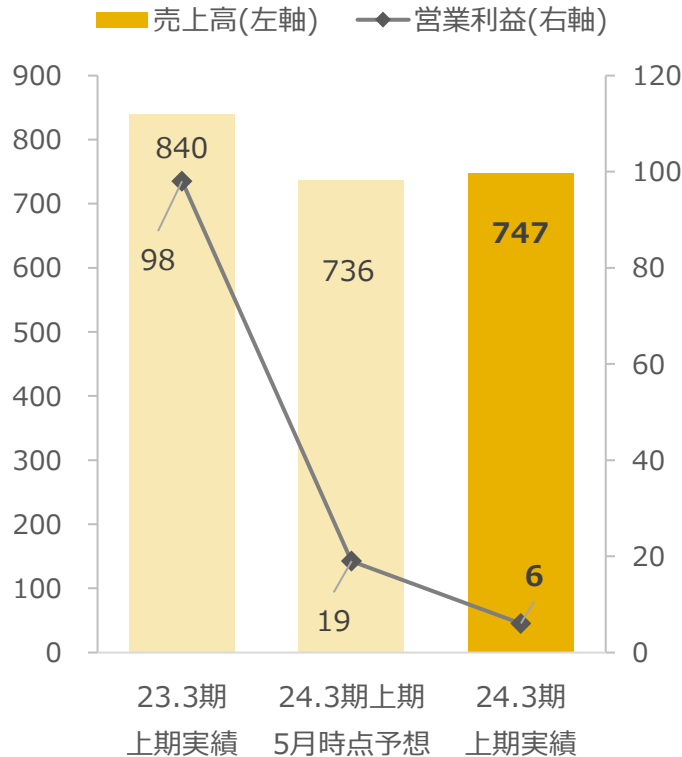


セグメント分析：精密部品

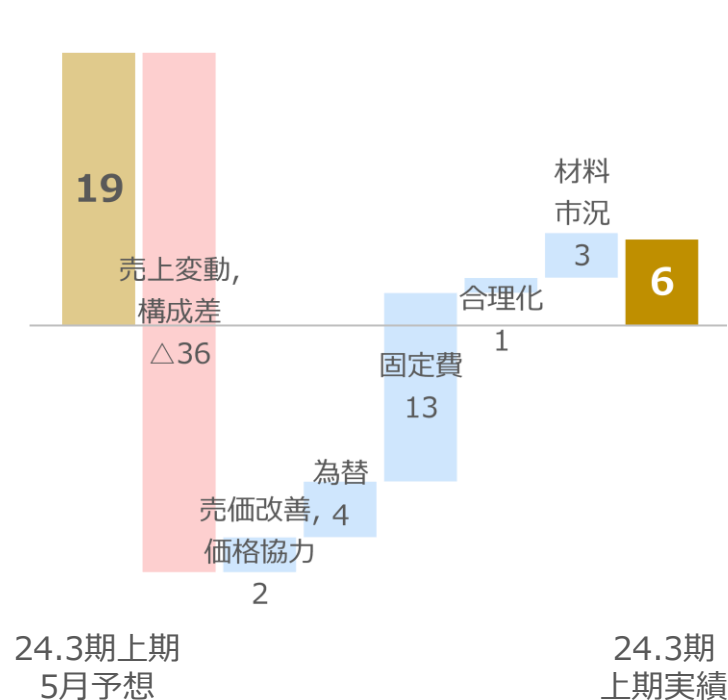
	23.3期 上期実績	24.3期上期		対前年同期 増減	対5月予想 増減
		5月時点予想	実績		
売上高	840	736	747	△92	11
営業利益	98	19	6	△91	△12
営業利益率	11.7%	2.6%	0.9%	△10.8%	△1.7%

(億円)

業績推移



営業利益の変動要因分析



▽対前期実績

自動車関連分野は、半導体供給不足等による生産調整からの持ち直しにより、概ね回復基調となった。

非自動車関連分野は、前年上期まで高い利益率で好調に推移していたHDD関連事業の数量減により、前年同期比で大幅な減収減益となった。

▽対5月時点予想

中国を除く各地域の自動車関連事業は概ね数量増。為替の円安効果も寄与したが、HDD関連事業の当初想定以上の数量減が影響し、増収減益となった。

セグメント分析：産業機器ほか

	23.3期 上期実績	24.3期上期		対前年同期 増減	対5月予想 増減
		5月時点予想	実績		
売上高	556	534	532	△23	△1
営業利益	66	29	31	△35	2
営業利益率	11.9%	5.4%	5.8%	△6.1%	0.4%

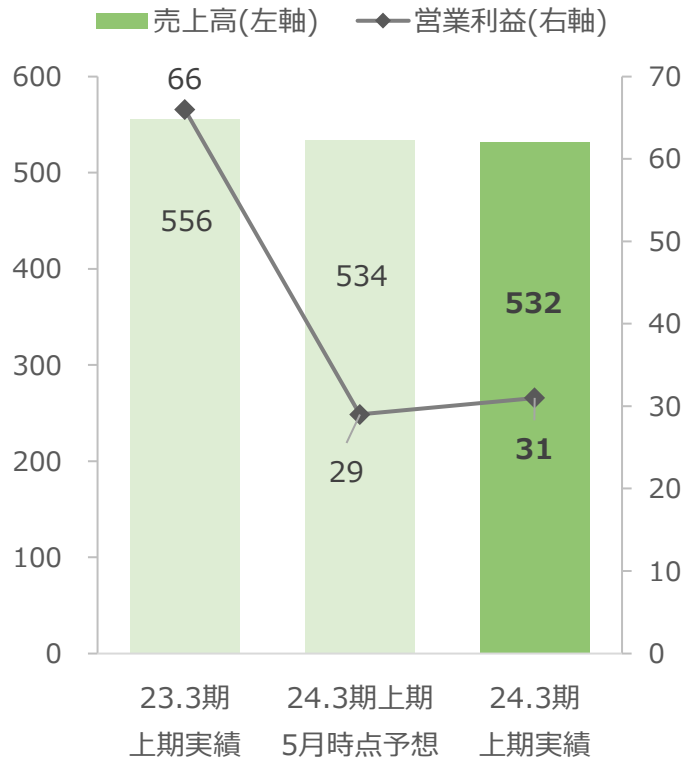
▽対前期実績

自動車生産台数の回復により関連事業の売上は増加。更に円安効果も寄与したが、半導体市場の低迷の影響を受け半導体プロセス部品の数量が減少し、前年同期比では減収減益となった。

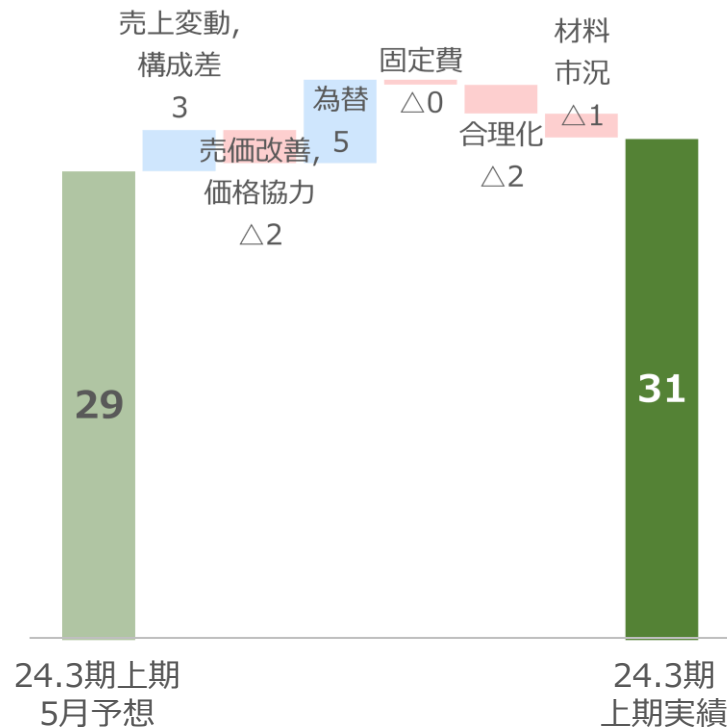
▽対5月時点予想

ゴルフシャフト、マリンプロダクト等の受注減はあったものの、自動車関連事業の増収や、為替の円安効果が寄与し、概ね当初予想並みの売上高・営業利益に着地した。

業績推移



営業利益の変動要因分析



24.3期 業績予想詳細

24.3期 通期予想

(億円)

	23.3期 実績	24.3期		増 減		
		5月時点予想	今回予想	対前期	対5月予想	
売上高	6,932	7,500	7,600	667	100	
営業利益	288	350	270	△18	△80	
営業利益率	4.2%	4.7%	3.6%	△0.6%	△1.1%	
経常利益	373	400	400	26	—	
経常利益率	5.4%	5.3%	5.3%	△0.1%	△0.0%	
親会社株主に帰属する当期純利益	215	250	250	34	—	
特別損益	△70	—	13	83	13	
平均為替レート	US \$	135.0	130.0	143.0	8.0	13.0
	タイバーツ	3.7	3.8	4.0	0.3	0.2
期末為替レート	US \$ (当期)	133.5	130.0	145.0	11.5	15.0
	(前期)	122.4	133.5	133.5	-	-
	タイバーツ (当期)	3.8	3.8	4.0	0.2	0.2
	(前期)	3.4	3.8	3.8	-	-

セグメント別売上高・営業利益の予想

(億円)

		23.3期 実績	24.3期		対前期 増減	対5月予想 増減
			5月時点予想	今回予想		
■ 懸架ばね	売上高	1,468	1,591	1,695	226	104
	営業利益	△27	21	0	27	△21
	営業利益率	△1.9%	1.3%	0.0%	1.9%	△1.3%
■ シート	売上高	2,737	2,975	3,245	507	270
	営業利益	73	118	162	89	44
	営業利益率	2.7%	4.0%	5.0%	2.3%	1.0%
■ 精密部品	売上高	1,594	1,797	1,560	△34	△237
	営業利益	114	125	44	△70	△81
	営業利益率	7.2%	7.0%	2.8%	△4.4%	△4.2%
■ 産業機器ほか	売上高	1,131	1,137	1,100	△31	△37
	営業利益	127	86	64	△63	△22
	営業利益率	11.3%	7.6%	5.8%	△5.5%	△1.7%
合計	売上高	6,932	7,500	7,600	667	100
	営業利益	288	350	270	△18	△80
	営業利益率	4.2%	4.7%	3.6%	△0.6%	△1.1%

▽対5月時点予想

■ 懸架ばね

売価改善や円安効果、材料市況の回収等により日本・タイ・中国は概ね当初想定並みの利益を確保できる見込みも、米欧事業は当初損益目標から大きく下回る見通し。

■ シート

前回予想を上回る数量予想となり、台数増に伴い損益も計画を上回る見通し。

■ 精密部品

自動車関連部品は、上期に引き続き中国以外は概ね数量増の傾向。

HDD関連部品は、客先需要の回復時期遅れにより当初の売上計画から大きく下振れし、減収減益の見込み。

■ 産業機器ほか

半導体プロセス部品や金属基板の数量減により減収減益の見通し。

地域別売上高・営業利益の予想

(億円)

		23.3期 実績	24.3期		対前期 増減	対5月予想 増減
			5月時点予想	今回予想		
●日本	売上高	3,910	4,280	4,350	439	70
	営業利益	247	217	219	△28	2
	営業利益率	6.3%	5.1%	5.0%	△1.3%	△0.0%
●アジア	売上高	1,867	2,012	1,843	△24	△169
	営業利益	104	125	81	△23	△44
	営業利益率	5.6%	6.2%	4.4%	△1.2%	△1.8%
●米欧ほか	売上高	1,153	1,208	1,407	253	199
	営業利益	△63	8	△30	33	△38
	営業利益率	△5.5%	0.7%	△2.1%	3.4%	△2.8%
合計	売上高	6,932	7,500	7,600	668	100
	営業利益	288	350	270	△18	△80
	営業利益率	4.2%	4.7%	3.6%	△0.6%	△1.1%

▽対5月時点予想

●日本

日本は、HDD関連部品は当初想定以上の数量減となる見込みだが、シート事業を中心とした自動車関連分野の増収、及び円安による押上効果で増収増益を確保できる見通し。

●アジア

中国における日系自動車メーカー向け製品の受注減、及びタイ・中国のHDD関連製品の受注減により、当初計画に対し減収減益となる見込み。

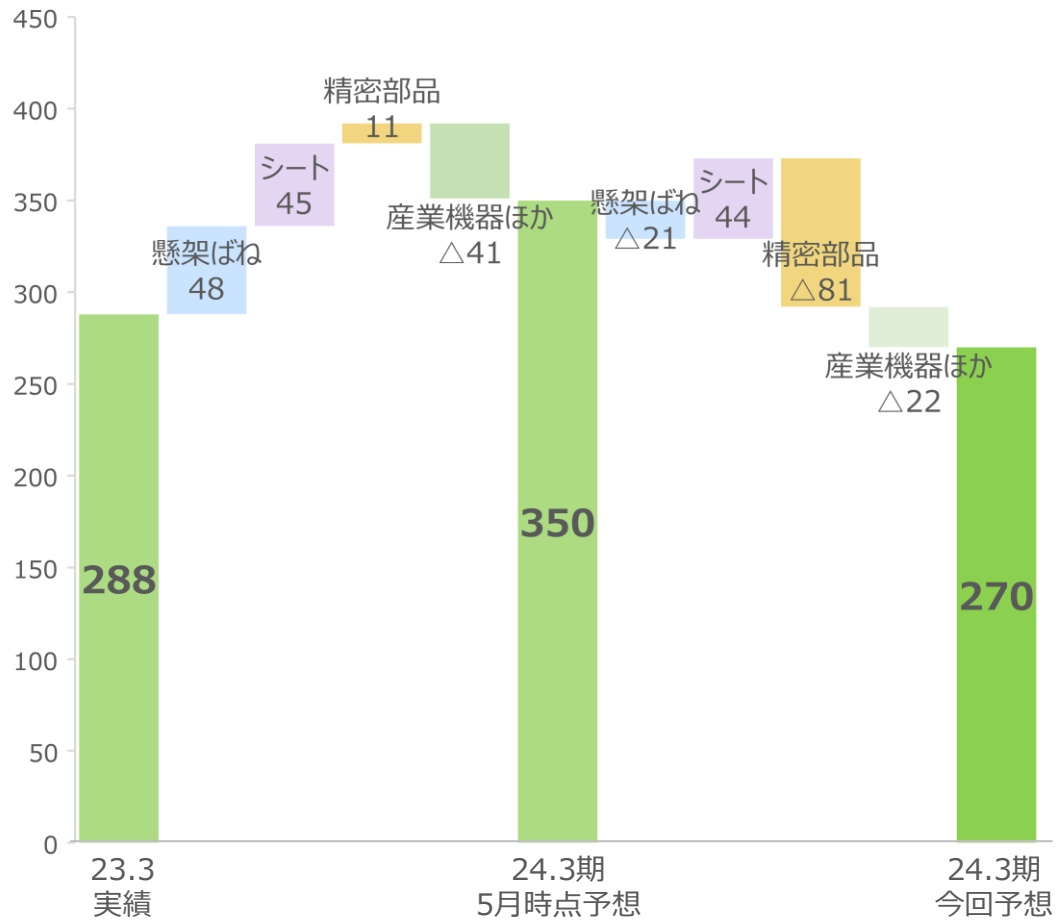
●米欧ほか

北米自動車市場の回復と円換算影響により増収。損益面でも下期挽回を図るが、上期の赤字幅をカバーできず、営業利益は当初計画を下回る見通し。

営業利益のセグメント別推移

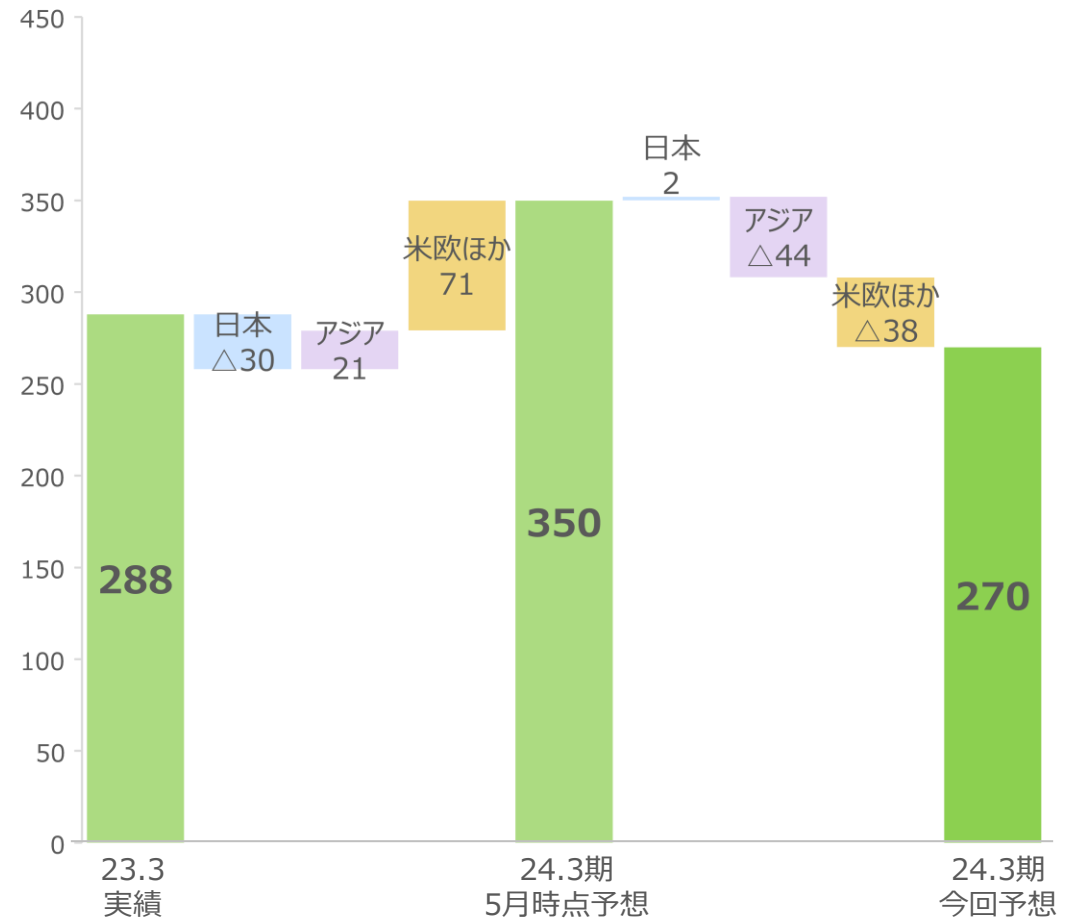
事業セグメント別

(億円)



地域セグメント別

(億円)



セグメント分析：懸架ばね

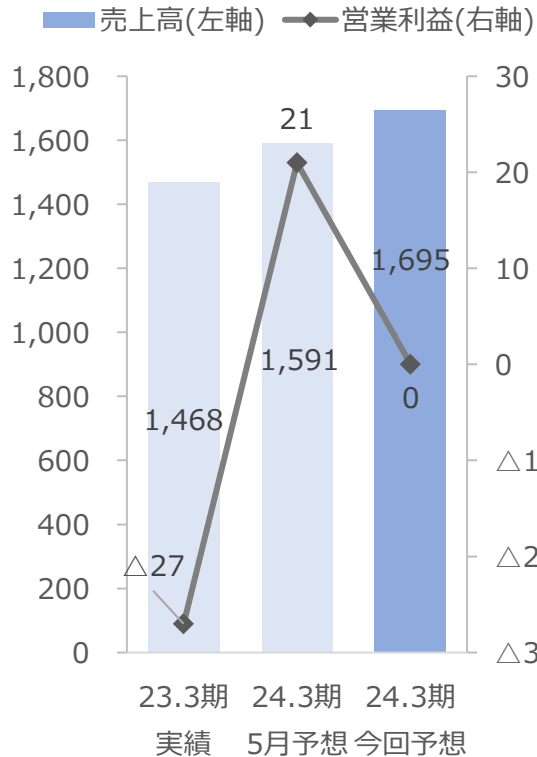
	23.3期 実績	24.3期		対前期 増減	対5月予想 増減
		5月時点予想	今回予想		
売上高	1,468	1,591	1,695	226	104
営業利益	△27	21	0	27	△21
営業利益率	△1.9%	1.3%	0.0%	1.9%	△1.3%

▽対5月時点予想

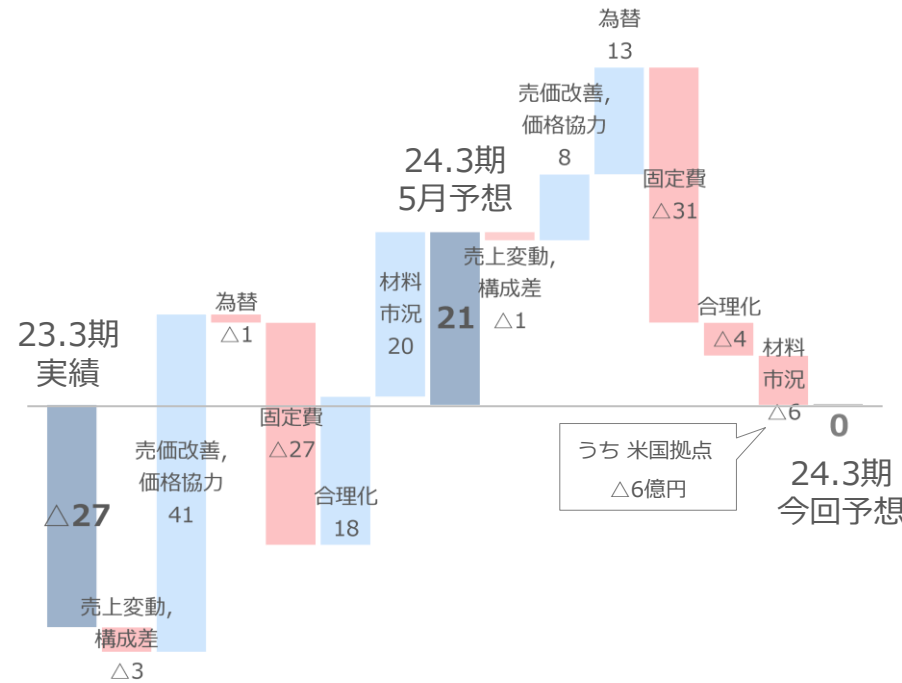
売価改善や円安効果、材料市況の回収等により日本・タイ・中国は概ね当初想定並みの利益水準に着地する見通し。

下期の米欧事業については、売価改善と生産性改善努力により、上期比較では赤字幅が縮小するものの、通期ベースでは当初の利益目標を下回る見込み。

業績比較



営業利益の変動要因分析



セグメント分析：シート

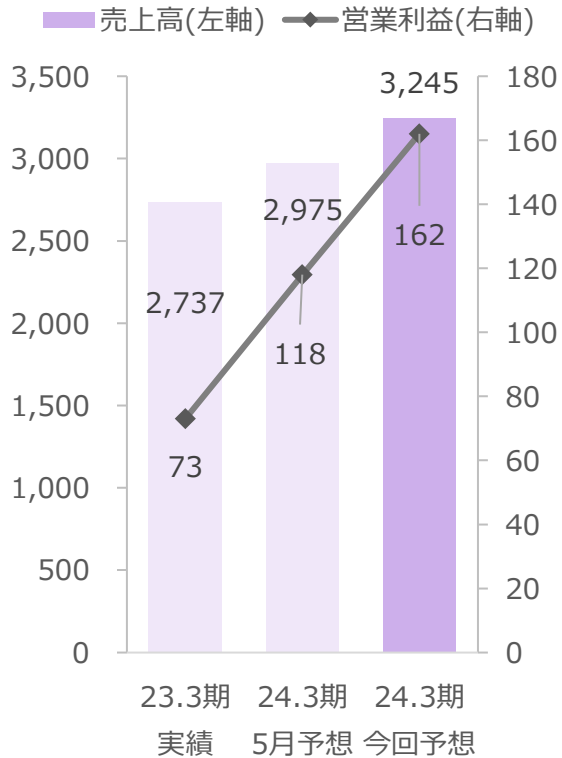
	23.3期 実績	24.3期		対前期 増減	対5月予想 増減
		5月時点予想	今回予想		
売上高	2,737	2,975	3,245	507	270
営業利益	73	118	162	89	44
営業利益率	2.7%	4.0%	5.0%	2.3%	1.0%

▽対5月時点予想

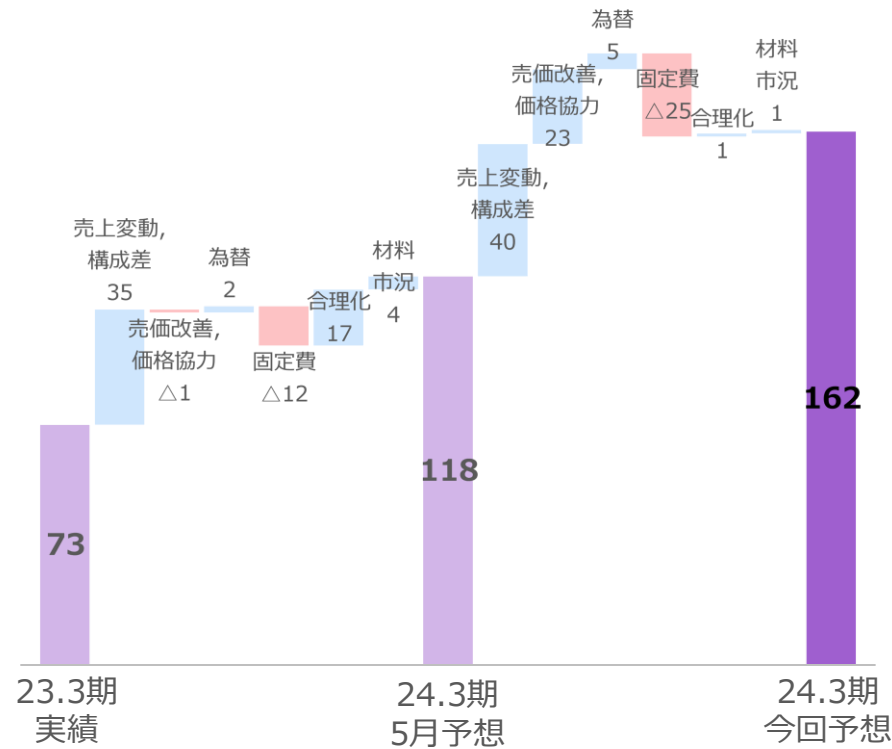
中国を除くすべての拠点で前回予想を上回る売上高を確保できる見込み。

特にSUBARU・トヨタ・日産圏のビジネスが好調に推移し、当期はシート事業が連結グループ全体収支を牽引する見通し。

業績比較



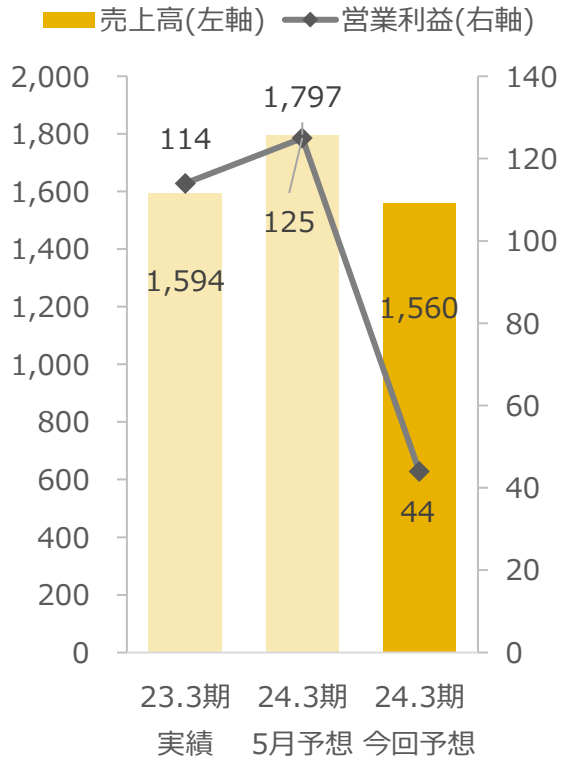
営業利益の変動要因分析



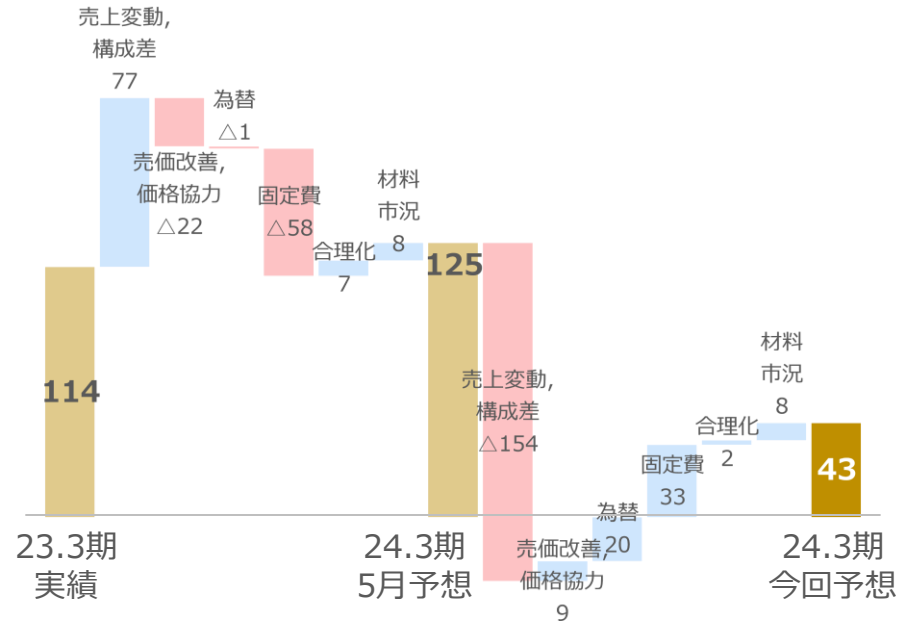
セグメント分析：精密部品

	23.3期 実績	24.3期		対前期 増減	対5月予想 増減
		5月時点予想	今回予想		
売上高	1,594	1,797	1,560	△34	△237
営業利益	114	125	44	△70	△81
営業利益率	7.2%	7.0%	2.8%	△4.4%	△4.2%

業績比較



営業利益の変動要因分析



▽対5月時点予想

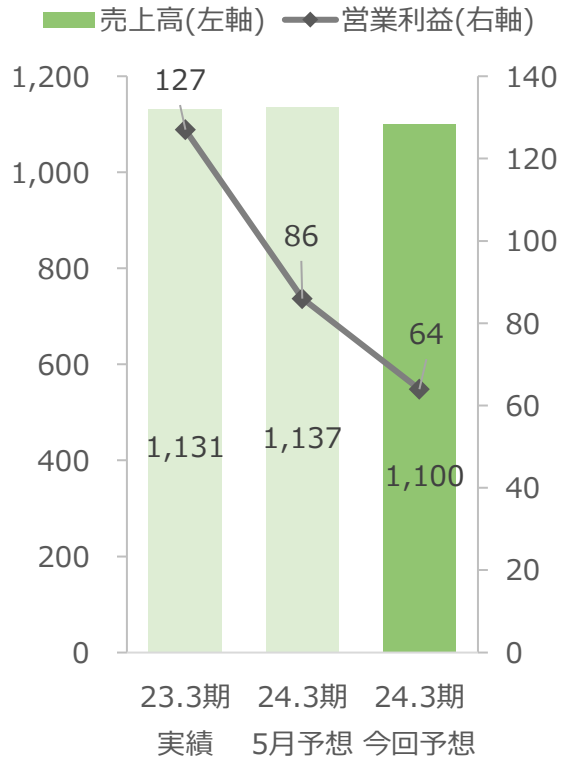
自動車関連部品は、中国拠点を除き、概ね数量増の傾向。

HDD関連部品は、当初は下期以降の回復を想定していたが、客先需要の回復時期遅れにより当初の売上計画から大きく下振れ。円安による利益押上や固定費の抑制努力は織込むものの、当初の利益目標を下回る見通し。

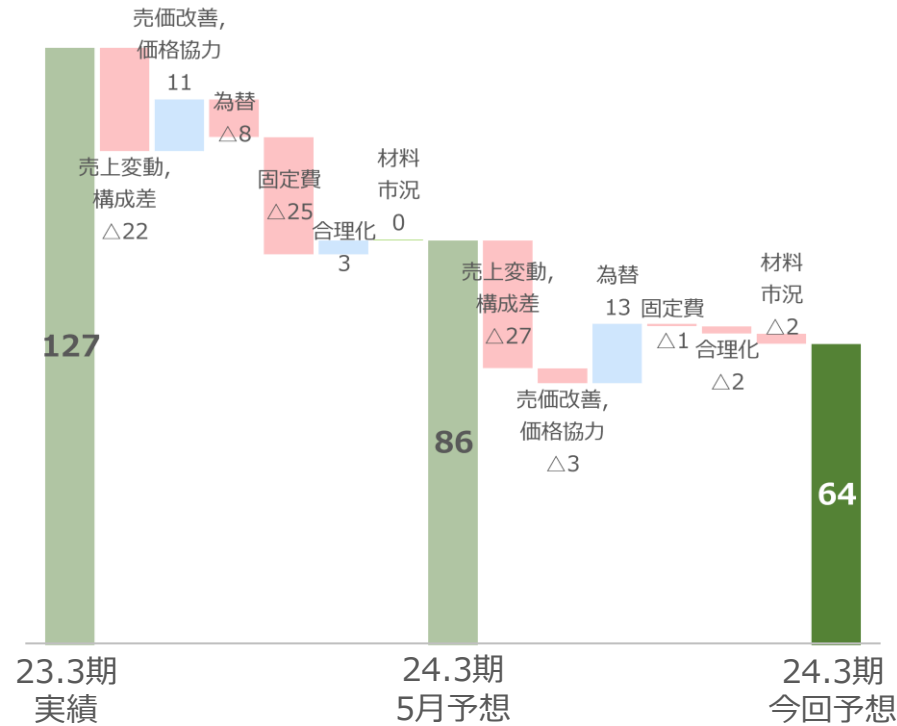
セグメント分析：産業機器ほか

	23.3期 実績	24.3期		対前期 増減	対5月予想 増減
		5月時点予想	今回予想		
売上高	1,131	1,137	1,100	△31	△37
営業利益	127	86	64	△63	△22
営業利益率	11.3%	7.6%	5.8%	△5.5%	△1.7%

業績比較



営業利益の変動要因分析



▽対5月時点予想

円安効果は寄与するものの、半導体プロセス部品や金属基板は当初想定の上数量を下回る見通し。

ゴルフシャフトやマリンプロダクト等のレジャー分野も、客先在庫調整の影響により当初の収支目標から下振れ。

2023中期経営計画 進捗状況

【売上高・損益目標】

- ・ 売上高 6,500億円
- ・ 営業利益 400億円 (利益率 6.2%)
- ・ 経常利益 420億円 (利益率 6.5%)
- ・ 親会社株主に帰属する当期純利益 250億円 (利益率 3.8%)

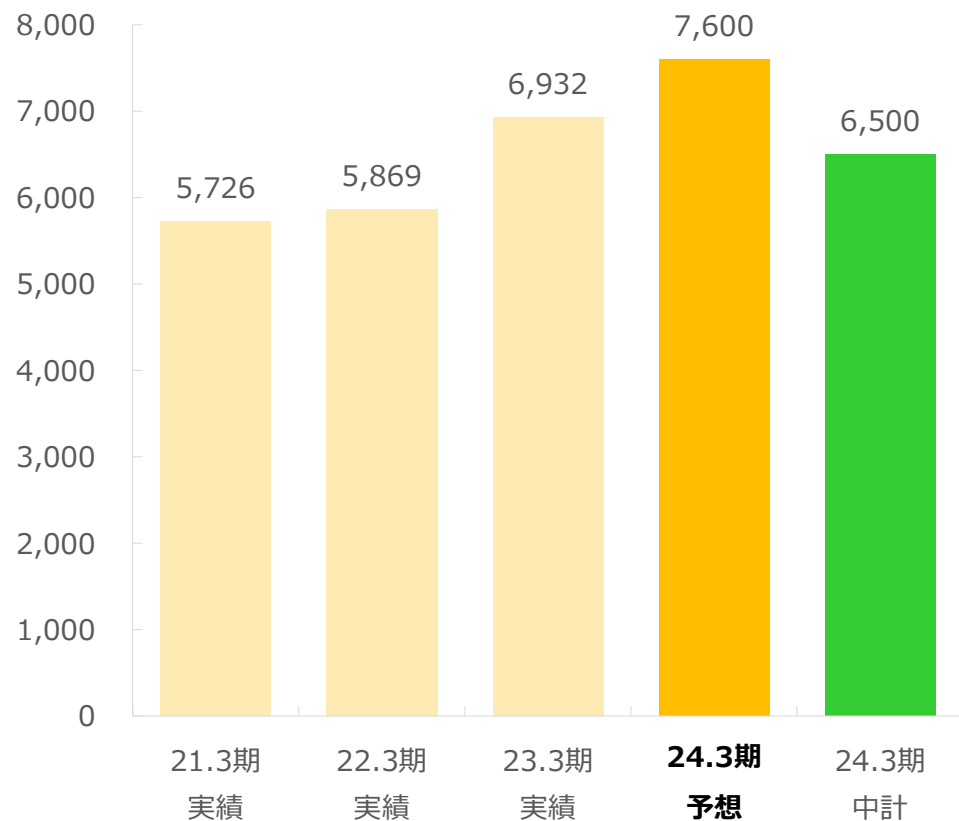
【財務指標目標】

- ・ 経常利益率 : 6.5%
- ・ ROE : 8.0%
- ・ 配当性向 : 30%程度を目指す

21.3期～24.3期 業績状況

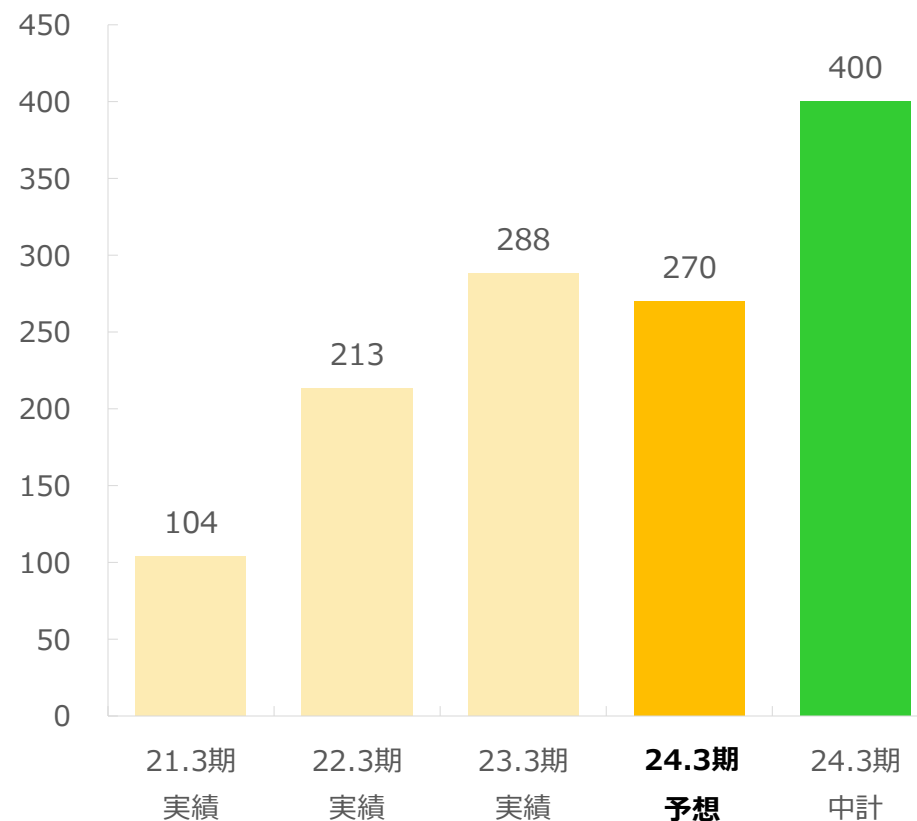
売上高

(億円)



営業利益

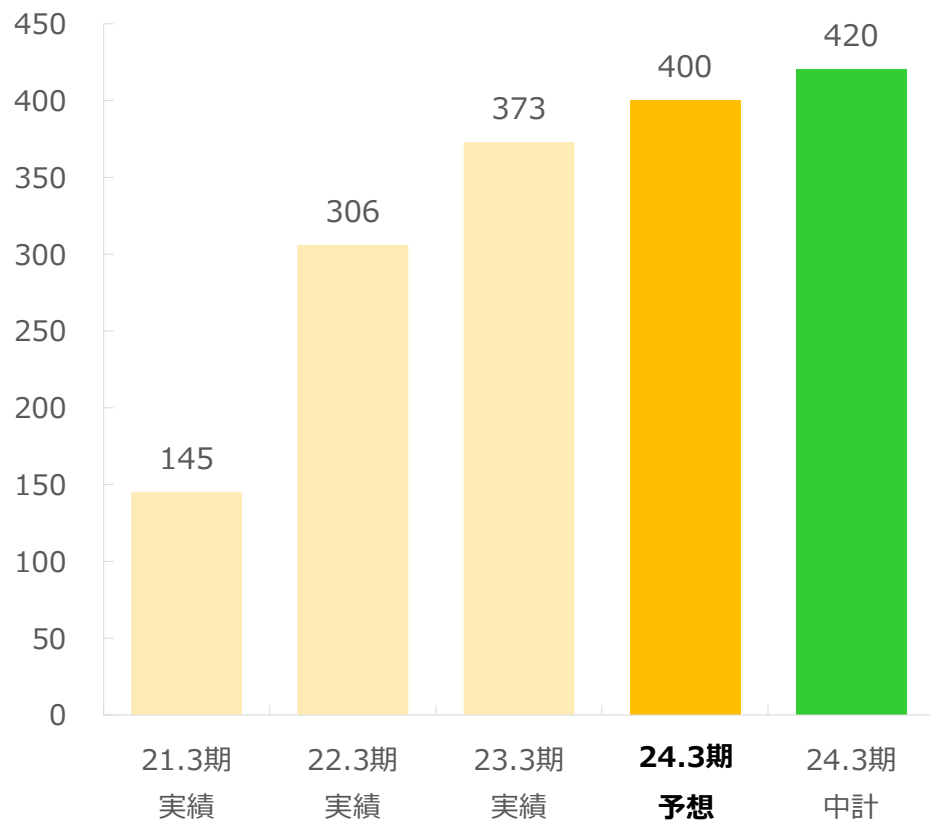
(億円)



21.3期～24.3期 業績状況

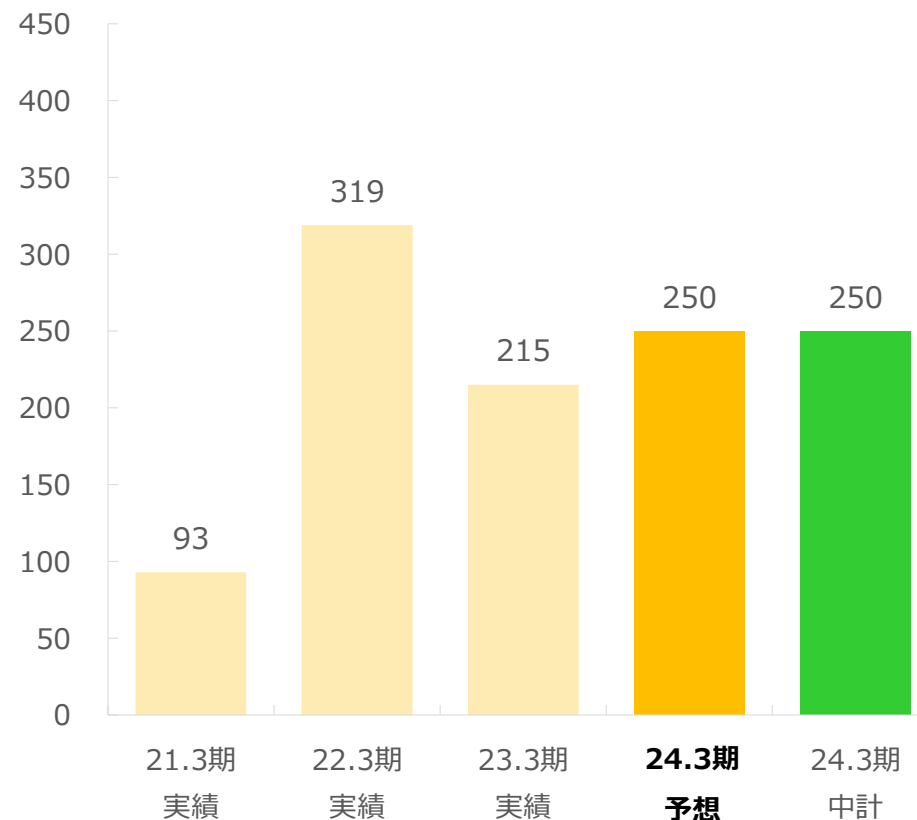
経常利益

(億円)



親会社株主に帰属する当期純利益

(億円)



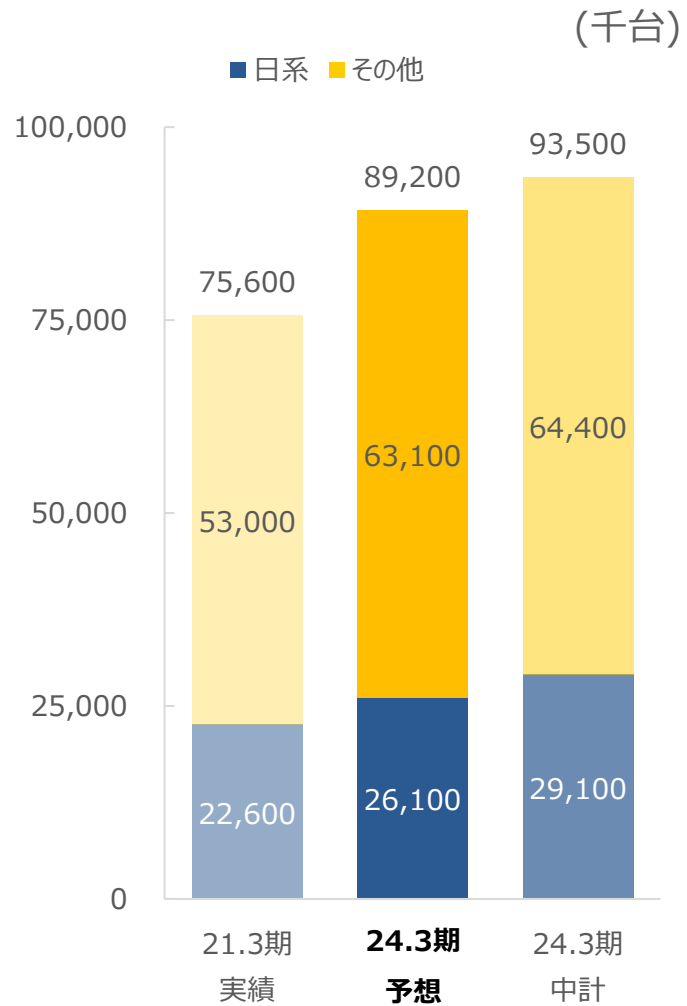
21.3期～24.3期 業績状況

経常利益率、ROE、配当性向

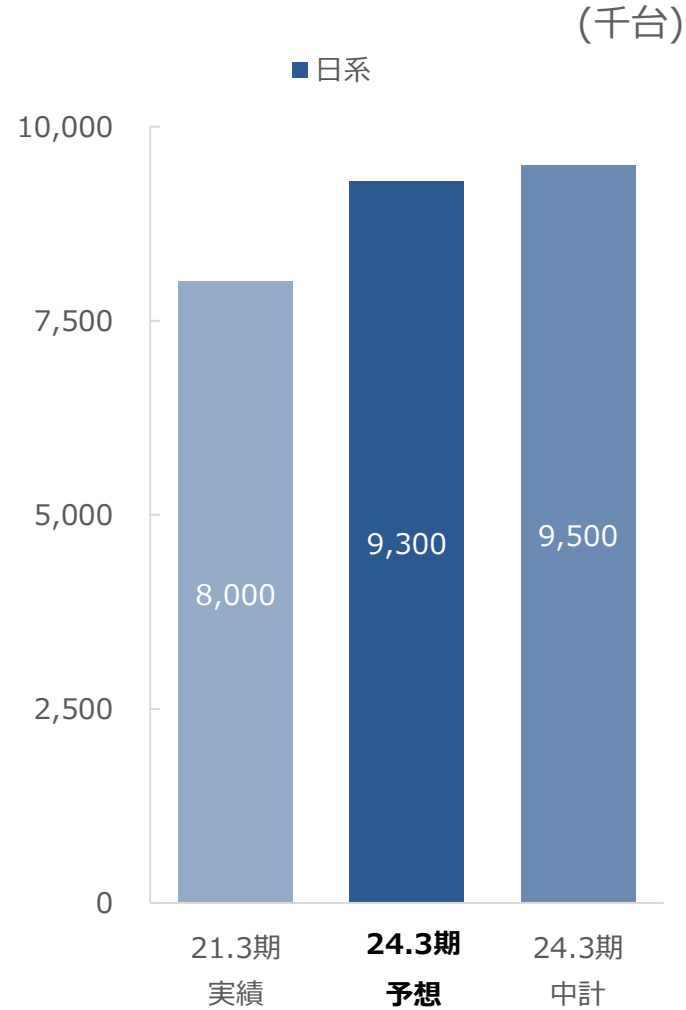
	21.3期 実績	22.3期 実績	23.3期 実績	24.3期 予想	24.3期 中計
経常利益率	2.5%	5.2%	5.4%	5.3%	6.5%
ROE	3.4%	10.5%	6.4%	6.8%	8.0%
配当性向	42.0%	19.2%	33.9%	30.8%	30.0%

売上の前提（自動車生産台数 推移）

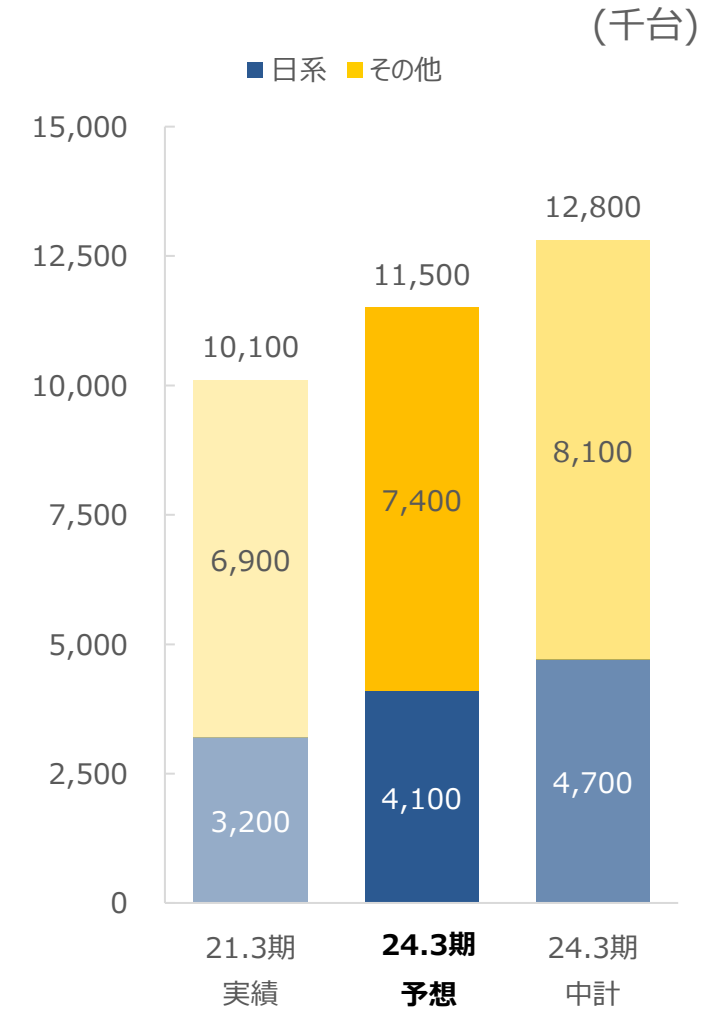
グローバル



日本

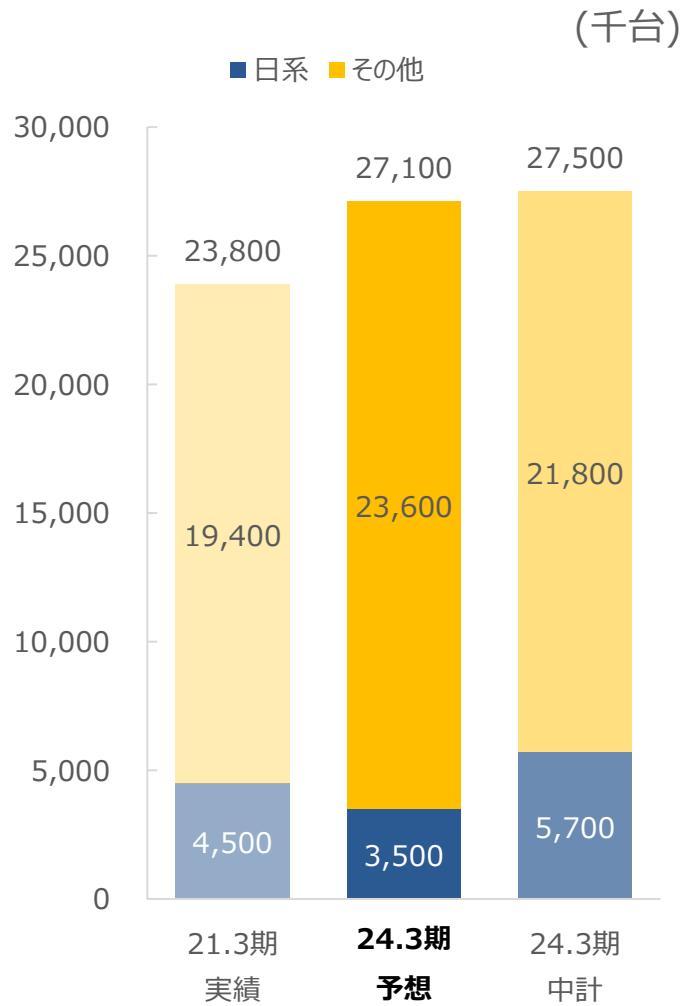


北米

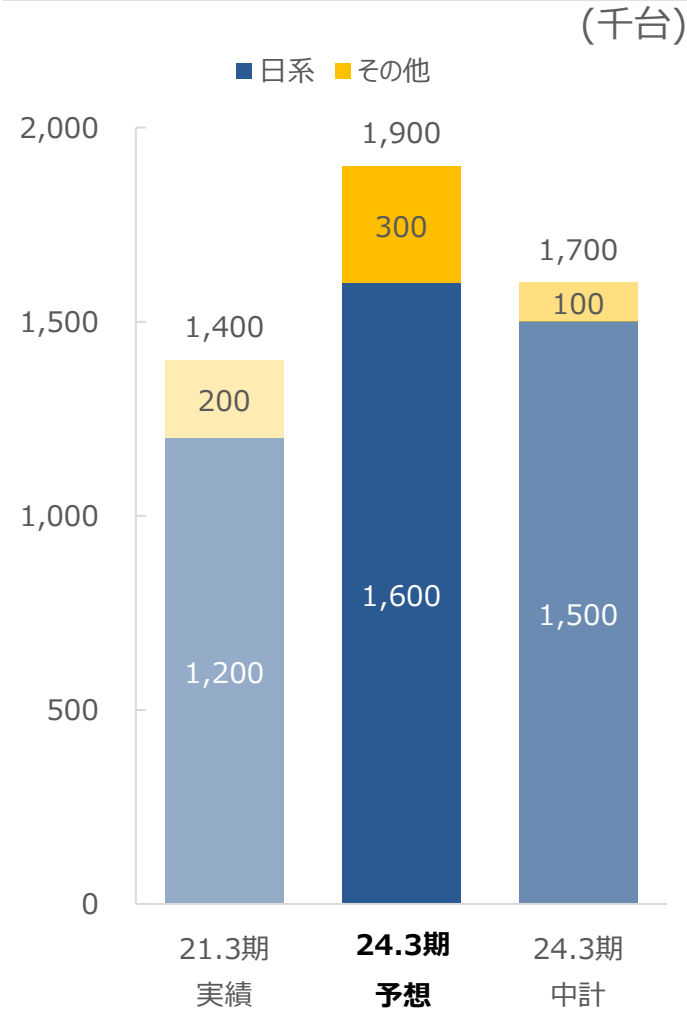


売上の前提（自動車生産台数 推移）

中国

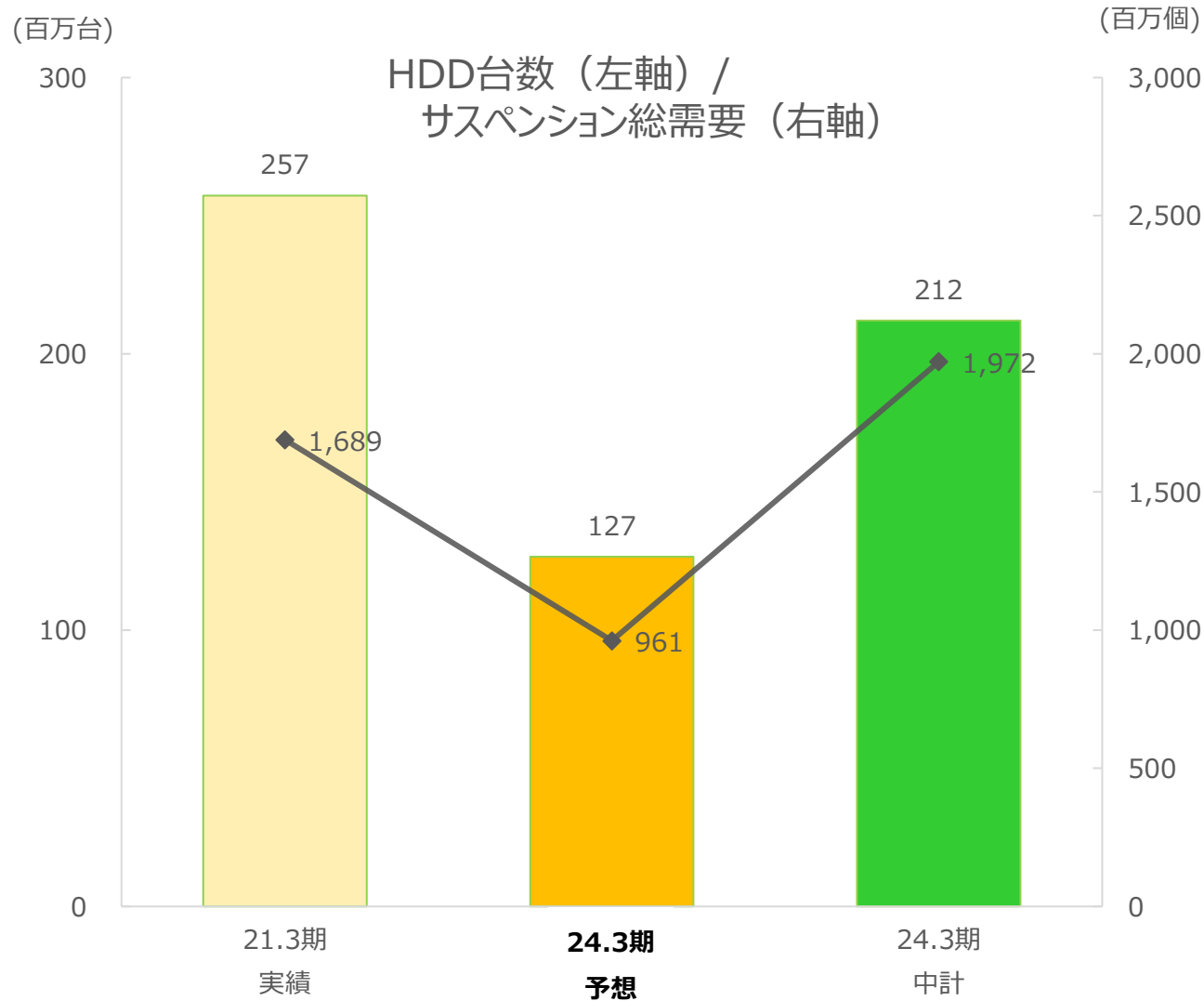


タイ



- 中計においては、コロナ禍の影響からの回復を前提に、23年度はグローバルで対20年度比24%増、各地域においても16~27%の大幅な伸びを見込んだ。
- 世界的な半導体不足の影響等により、自動車生産台数は中計で見込んだ数量までは回復していない。

売上の前提（HDD生産台数 推移）



- コロナ禍でのパニック・バイの反動により2022年後半からHDDの需要低迷が始まり、当初の想定以上に回復が遅れている。
⇒クラウドサービスプロバイダの投資がAIに向けられ、ストレージへの投資が抑制されていることが主要因
- 世界のデータ創出量は増加の一途を辿っており、HDDは半導体メモリとの価格差において依然として優位にあるため、今後HDDの需要は右肩上がりに推移すると予想される。

23中計-23予想差異（セグメント別・要因別）

- ・23中計比で売上は1,100億円のプラス、営業利益は130億円のマイナス
- ・為替影響は売上高でプラス886億円、営業利益でプラス18億円

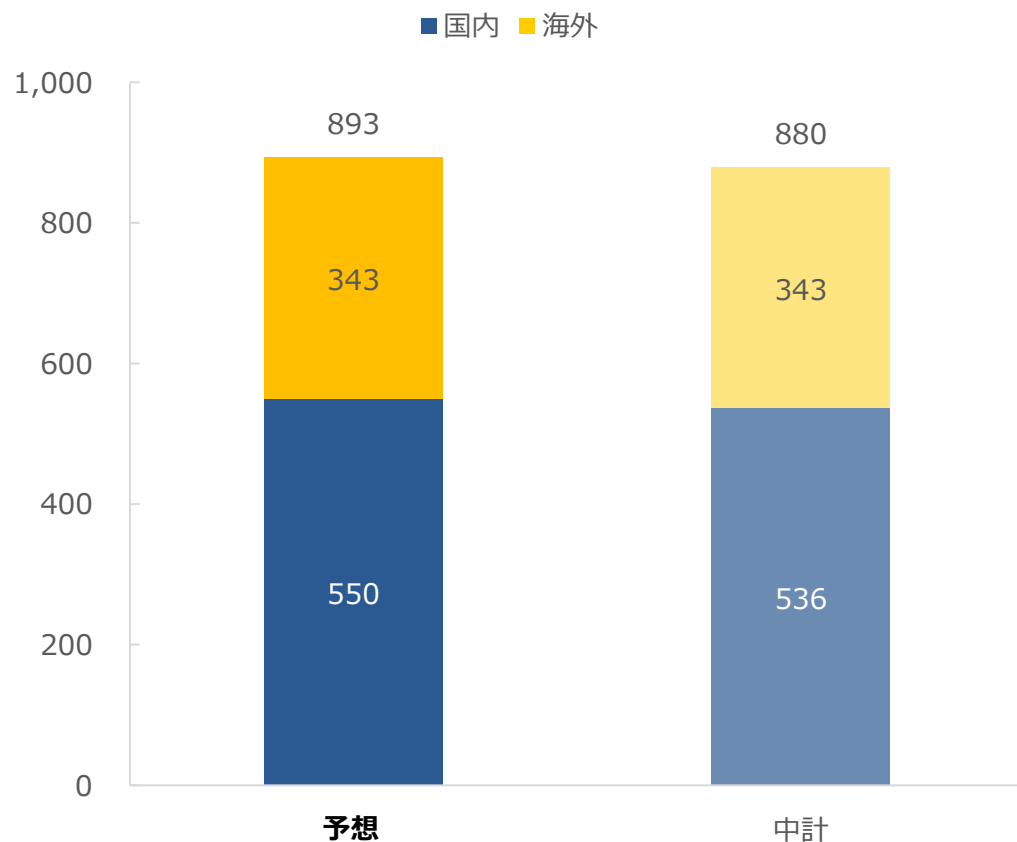
(億円)

セグメント	区分	24.3期中計	24.3期予想	差異	差異内訳			
					為替影響	鋼材高騰回収	補経費高騰回収	数量変動他
ばね	売上高	1,210	1,695	485	288	224	41	△ 68
	営業利益	30	0	△ 30	△ 2	30	3	△ 60
	%	2.5%	0.0%	-	-	-	-	-
シート	売上高	2,400	3,245	845	409	160	9	267
	営業利益	80	162	82	15	16	0	51
	%	3.3%	5.0%	-	-	-	-	-
精密部品	売上高	1,790	1,560	△ 230	181	73	9	△ 493
	営業利益	180	44	△ 136	5	5	△ 2	△ 144
	%	10.1%	2.8%	-	-	-	-	-
産業機器ほか	売上高	1,100	1,100	0	8	36	4	△ 47
	営業利益	110	64	△ 46	0	△ 10	△ 3	△ 34
	%	10.0%	5.8%	-	-	-	-	-
全体	売上高	6,500	7,600	1,100	886	493	63	△ 341
	営業利益	400	270	△ 130	18	41	△ 2	△ 187
	%	6.2%	3.6%	-	-	-	-	-

設備投資・減価償却費 中計・予想比較

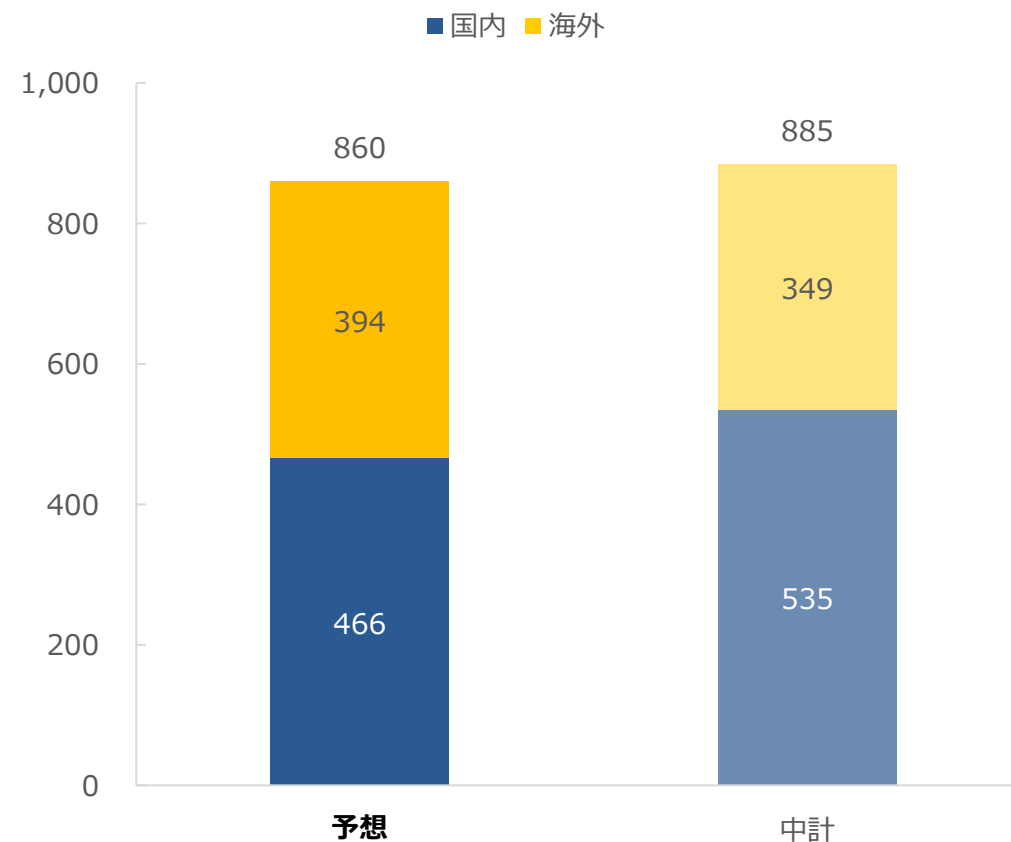
設備投資 22.3期～24.3期 計

(億円)



減価償却費 22.3期～24.3期 計

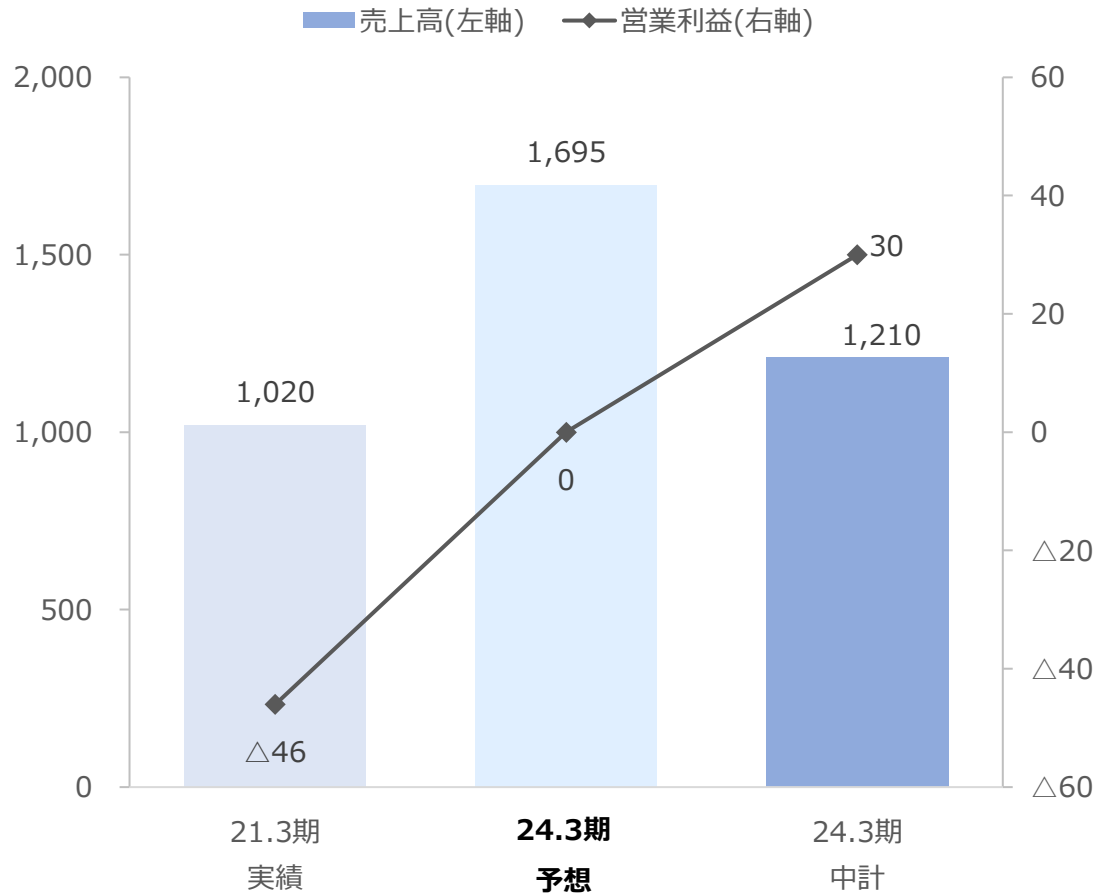
(億円)



各事業の進捗状況(懸架ばね)

- ・売上高は回復傾向であるが、鋼材市況高騰や労務費の上昇により売上原価が大幅に増加した。
- ・不採算品の適正売価への改善や生産性の向上と自動化による省人を図り固定費低減を推進していく。
- ・特に北米では、労務費上昇分や諸資材価格高騰の回収の遅れ、雇用環境悪化により収益改善が進んでいない。

業績比較 (億円)



23中計の課題と取組

◆ 新技術・商品の創出

新規テーパー成型により、同じ荷重に耐える従来の製品と比べ34%軽量化したX Tコイルばね等を開発

◆ 米州赤字拠点の黒字化、および欧州拠点の収支改善

人件費の高騰や生産性改善の遅れで厳しい状況が続く。引き続き収益改善を推進する。

◆ 最適生産体制確立

板ばね) 組立工程の関連会社への移管完了
巻ばね、スタビライザ) 生産直数の変更やグローバル供給体制の見直しを検討していく。

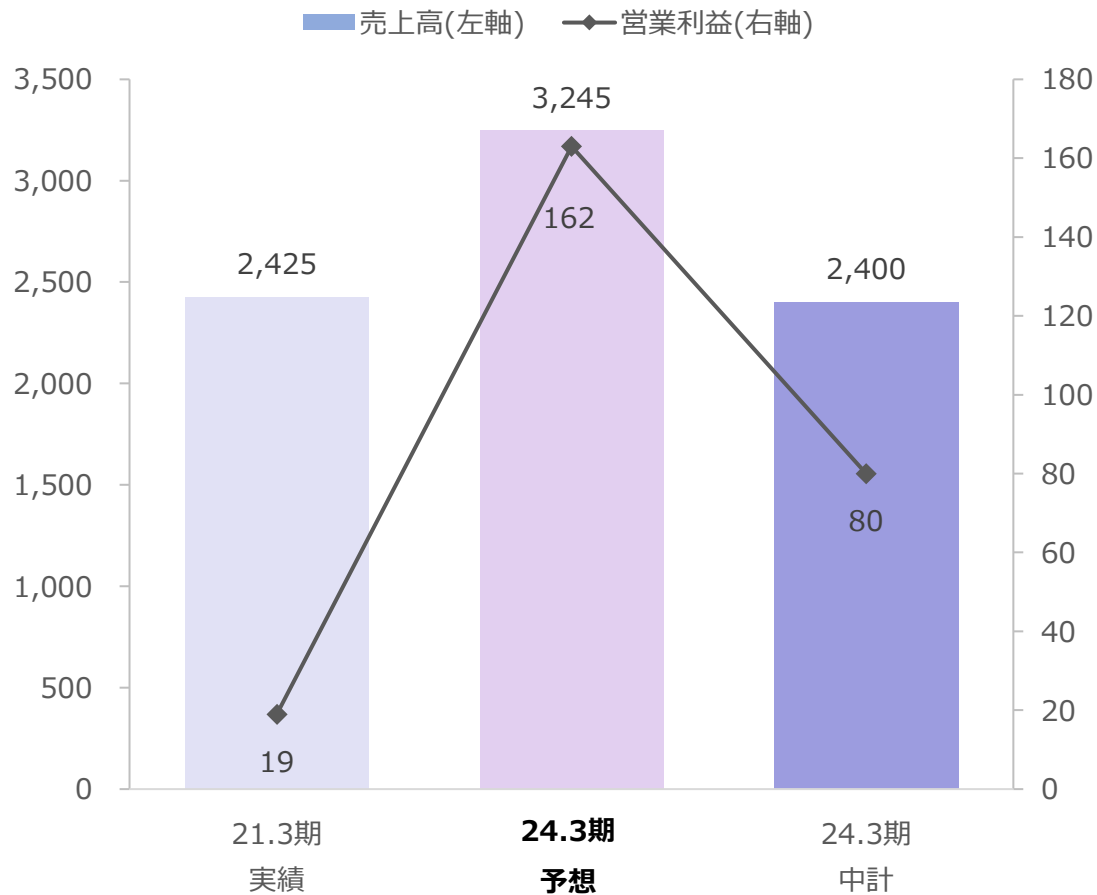
◆ 製造コストの徹底的な削減

引き続き固定費の削減、合理化に努める。

各事業の進捗状況(シート)

・売上高、営業利益共に中計を大きく上回る予想

業績比較 (億円)



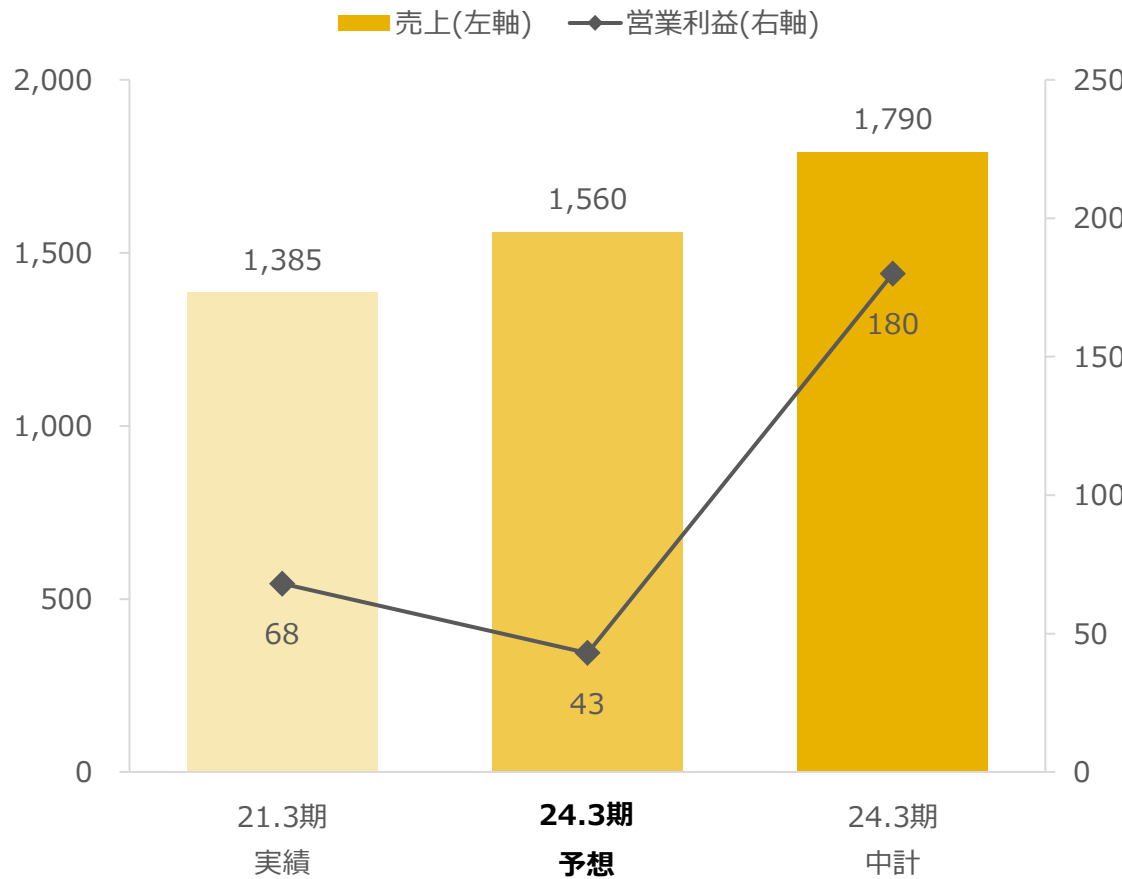
23中計の課題と取組

- ◆ **モデルチェンジへの着実な対応**
計画通り順調に対応
- ◆ **北米新工場の収益力向上**
新工場への移管完了
物流改善等により収益力が向上
- ◆ **解析技術向上等による開発費用低減、期間短縮**
静的強度試験の半減を目指し活動継続
- ◆ **客先品質要求への着実な対応**
開発手順の見直し、AI外観検査導入などで更なるレベルアップを推進
- ◆ **自動運転化時代に求められるシートの開発**
自動運転時に必要とされる当社独自のアイテム開発を推進中

各事業の進捗状況(精密部品)

- ・自動車関連事業では、半導体不足等による生産台数減少影響等により減収減益。
- ・情報通信関連事業では、コロナ禍でのパニック・バイの反動によるHDDの需要低迷からの回復が遅れ、減収減益。

業績比較 (億円)



23中計の課題と取組

- ◆ **加速する電動化への着実な対応**
 - ・メキシコでのモーターコア生産能力増強
 - ・HEV、EV向け薄板ばねの拡充
- ◆ **増加するHDDニアライン需要への適切な対応及びシェアアップ**

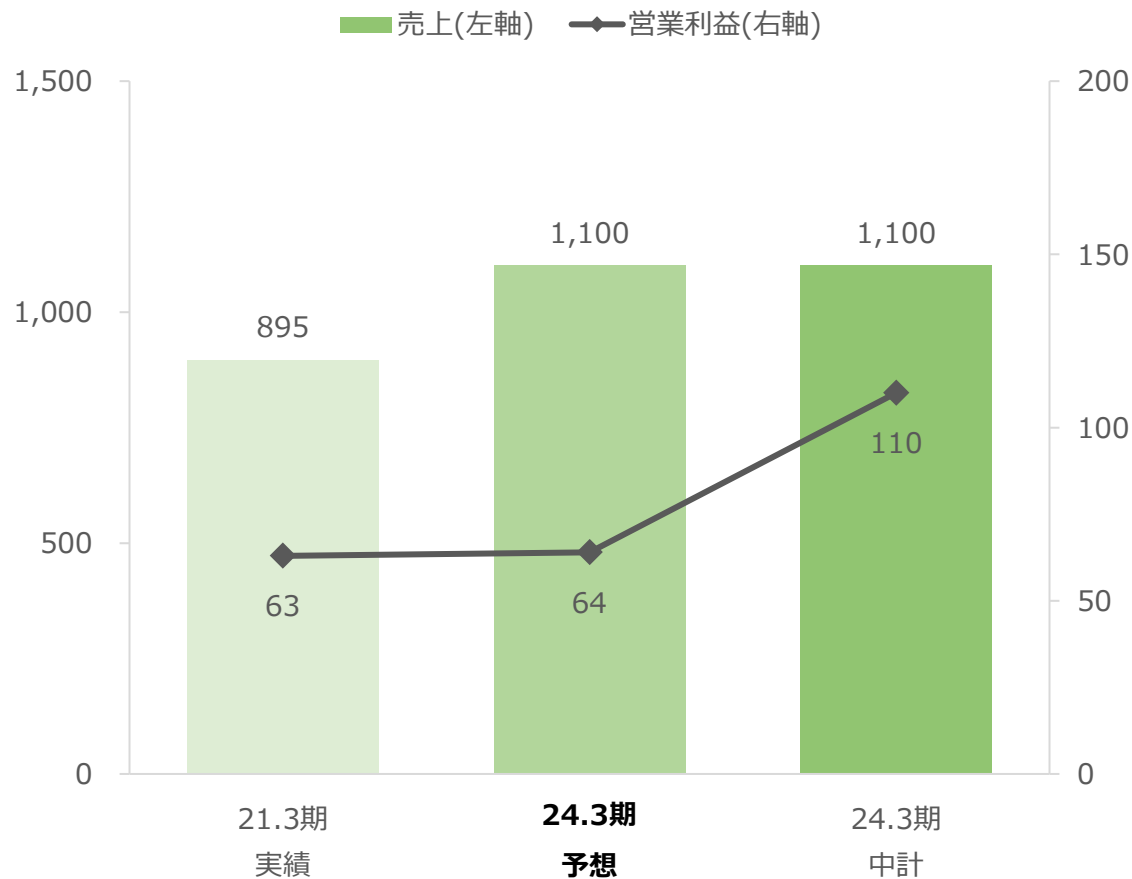
HDD需要の回復を見据え、更なる生産性向上
- ◆ **生産性向上、AI活用等による原価低減**

AIを活用したデータ処理、解析を推進

各事業の進捗状況(産業機器ほか)

- ・自動車及びレジャー関連事業の伸びはあるが、半導体製造装置需要の落ち込み影響が大きく、減収減益。

業績比較 (億円)



23中計の課題と取組

◆ 半導体プロセス部品

メモリー市況低迷が長期化し、本格的な需要回復は24年度以降となる見込み

◆ 金属基板

日本国内(駒ヶ根工場)、マレーシアにおける生産能力増強

◆ 配管支持装置、セキュリティ関連製品

選択と集中による収益力向上を推進

◆ 各開発テーマのスピードアップと新製品の拡販

シャワーヘッド製品、次世代溶射製品の展開

プロジェクトの進捗について

代表取締役社長
CEO

茅本 隆司

懸架ばね	黒字化	<h2>利益最大化プロジェクト</h2> <p>懸架ばねの価格改善 コスト増に対する適正価格交渉 生産性改善</p>
シート	顧客満足度向上	<h2>SUBARUプロジェクト</h2> <p>QCDDを意識したマネージメント体制の構築 ニーズに適合したシートの開発</p>
モーターコア	電動化の更なる加速	<h2>モーターコアプロジェクト</h2> <p>強みを活かした新規拡販 競争力UPと差別化による事業の加速</p>

懸架ばねの進捗 利益最大化プロジェクト

懸架ばねの価値向上

価格改善
インフレ上昇分の価格転嫁

労働生産性向上

労務費上昇を前提とした生産性向上
徹底した省人化

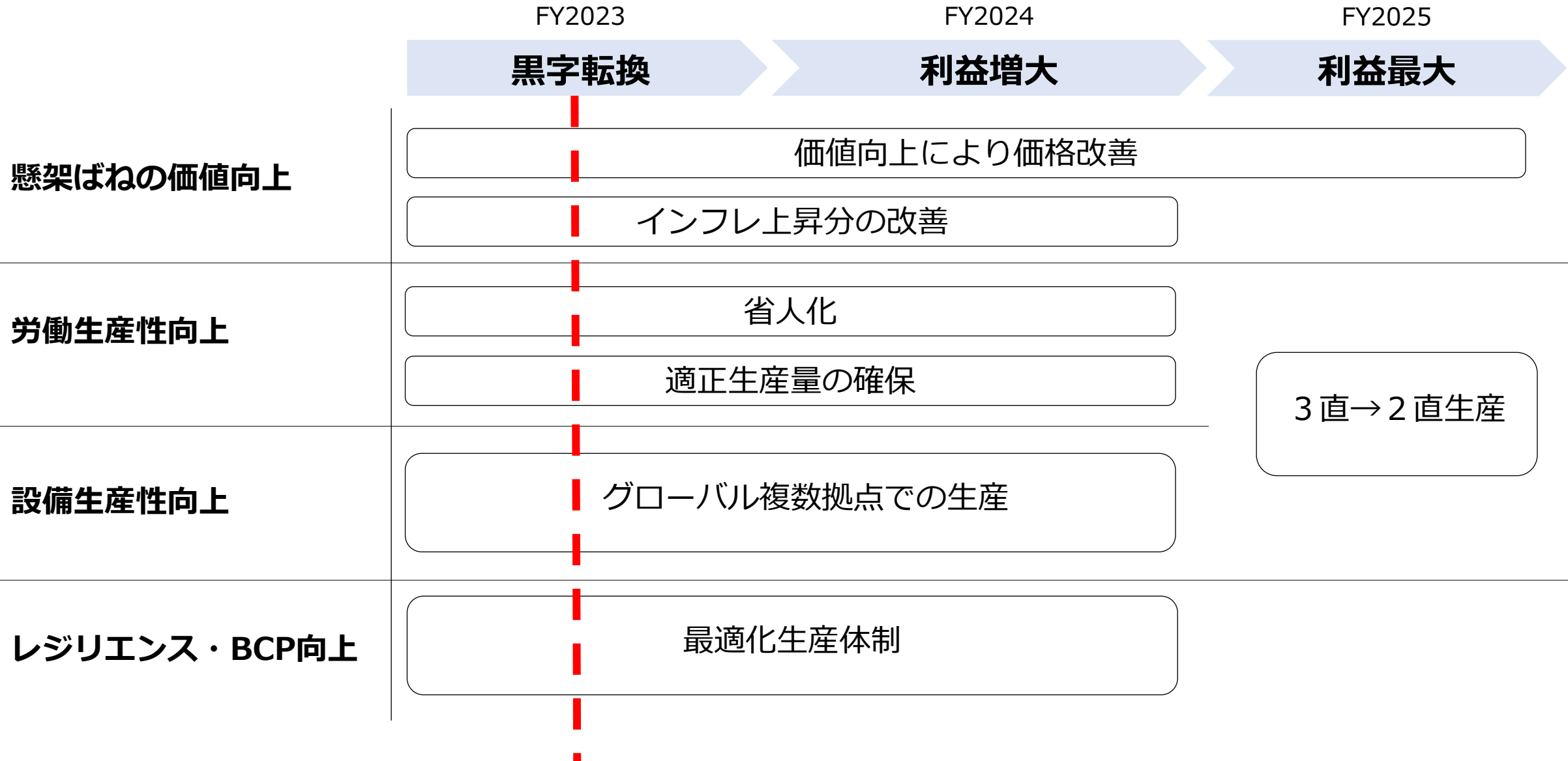
設備生産性向上

グローバル稼働率を基に
拠点間での最適生産を目指す

レジリエンス・BCPの強化

安定供給、生産のフレキシブル化を
目的としたグローバル供給体制の
見直し

ロードマップ (2023年5月 決算発表時)



懸架ばねの価値向上

材料費+補材経費

- ▶概ね回収も一部交渉中

労務費

- ▶交渉中

既存品

- ▶価値を認めてもらう活動強化

新規品

- ▶モデルチェンジの際に
適正価格で受注

労働生産性向上

労務費上昇を前提とした生産性向上
徹底した省人化

- ▶試作時間低減による労務費削減
歩留向上によるスクラップ低減
補材経費削減

設備生産性向上/レジリエンス・BCPの強化

- ・ グローバル稼働率を基に
拠点間での最適生産を目指し
安定供給を行う

▶ 北米生産分の**15%**を
他国生産に切り替え



シートの取組 スバルプロジェクト

お客様からの評価を向上させ関係強化を図るために

Q:品質

開発・設計段階からの品質の作り込み

C:コスト

設計の手戻りをなくし、目標コストを達成させる

D:納期

Project Managerによる工程の明確化
進捗の推進

D:開発

シートの本質の追求
バーチャル開発

Project Management (PM) 体制構築

プロジェクト全体の進行を一元管理、お客様との窓口も一元化
専門部隊は各々の業務に注力し効率化を図る

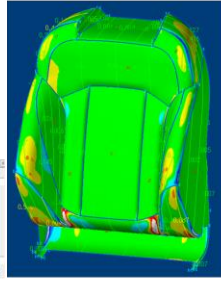
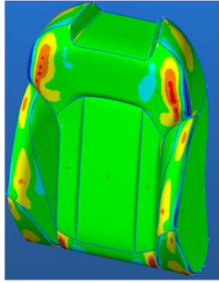
お客様評価

QCDDを向上させ、迅速に対応することで、評価へと繋げ、更なる強固な関係構築を図る

Q:品質

- ・開発・設計段階からの品質の作り込み

▶外観評点 14%増 (前モデル比)



赤：意匠に対し型紙が短い（潰れ懸念）
青：型紙が長くシワ懸念（表皮余り）

C:コスト

- ・設計の手戻りをなくし、目標コストを達成させる

▶設計変更数 35%減 (前モデル比)



D:納期

- Project Managerによる工程の明確化
進捗の推進
- ▶ 下記サイクルを回すことで
スムーズな立上げに成功

プロジェクト進捗

部門横断で随時
影響範囲特定
精度アップ

挽回策立案

必要リソースの確保
関係者への説明会

重点イベントの 計画推進

事前確認会設定
節目報告

変化点/調整

アクションプラン
進捗管理
停滞案件推進

D:開発

- シートの本質の追求/バーチャル開発
 - ▶ フロントローディング※により設変減
試験数 **40%減** (前モデル比)
- ※ 品質に関わる重要工程を開発前半に織り込む



モーターコアの進捗 モーターコアプロジェクト

グローバル生産体制の構築

～受注増加への対応～

- ・ 新生産棟建設（厚木工場）
- ・ 土地取得（メキシコ）
- ・ 生産能力増強（中国）

金型製作能力の増強

- ・ 設計者の増員と育成
- ・ 加工設備増強
- ・ 設計製作拠点をタイに追加

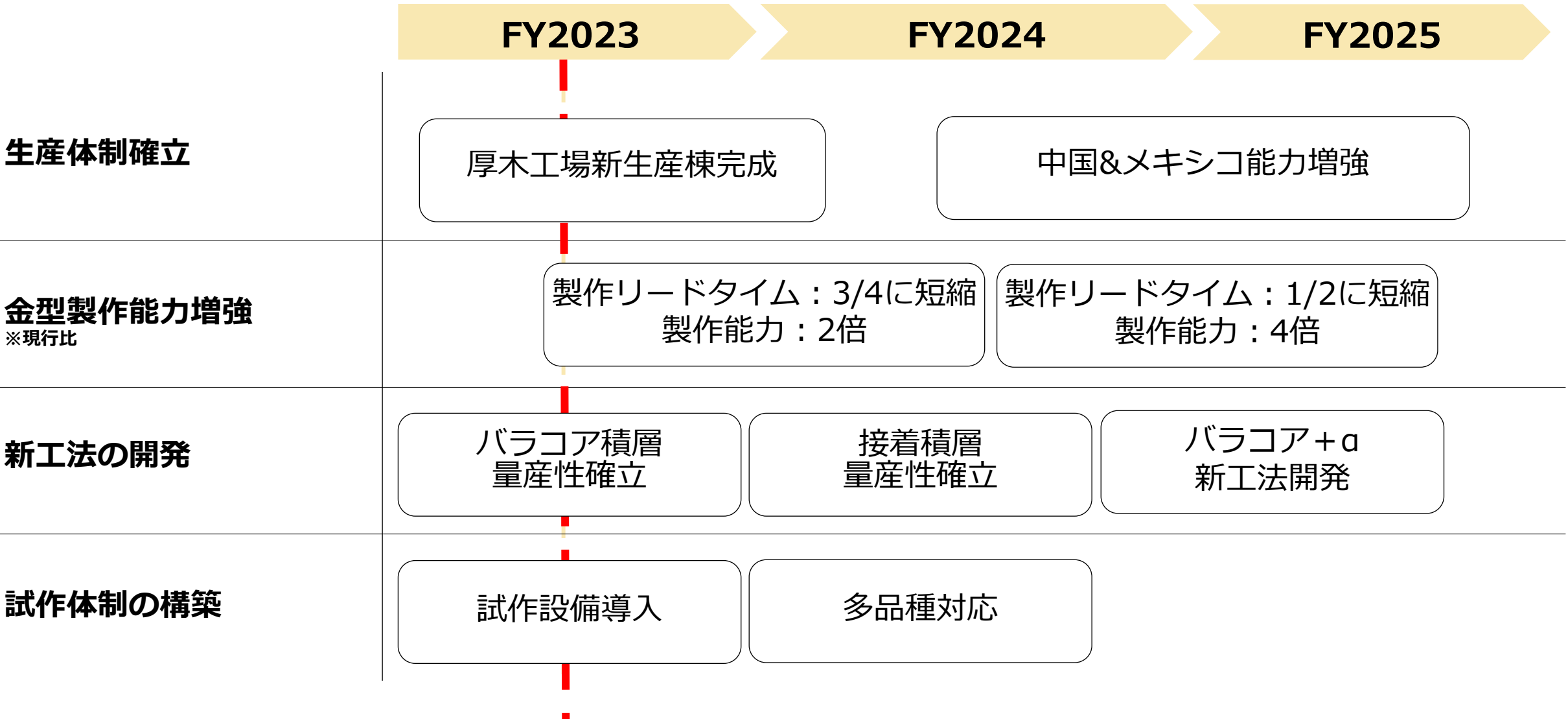
新工法の開発

- ・ バラコア積層
- ・ 接着積層
- ・ バラコア + α 新工法開発

試作品への積極的対応

- ・ 設計体制強化
- ・ 試作体制強化
- ・ 試作専用プレス導入

ロードマップ (2023年5月 決算発表時)



グローバル生産体制の構築

～受注増加への対応～

- 新生産棟建設（厚木工場）
▶ 竣工済（25年7月量産開始予定）
- 土地取得（メキシコ）
▶ 新生産棟の建設予定
- 生産能力増強（中国）
▶ 市場環境の変化により投資は見送り



金型製作能力の増強

- 設計者の増員と育成
▶ 設計能力倍増(厚木+タイ)完了
- 加工設備増強
▶ 23年下期より新規工作機械導入
- 設計製作拠点をタイに追加
▶ タイにて金型設計実施中
部品加工も23年下期よりスタート



新工法の開発

- ・バラコア積層
 - ▶ 量産工法確立完了
- ・接着積層
 - ▶ 量産機でトライ中
- ・バラコア + α 新工法開発
 - ▶ 軽量かつ高強度な
アモルファス材原理試作評価中

試作品への積極的対応

- ・設計体制強化
 - ▶ プロジェクトメンバーの専属化
- ・試作体制強化
 - ▶ 24年1月自主試作トライ～体制整備
- ・試作専用プレス導入
 - ▶ 23年12月導入予定

プロジェクトメンバーの専属化

原価企画・事業戦略

設備

金型

金型解析

海外立上げ

特許戦略

技術・設計・評価

品質

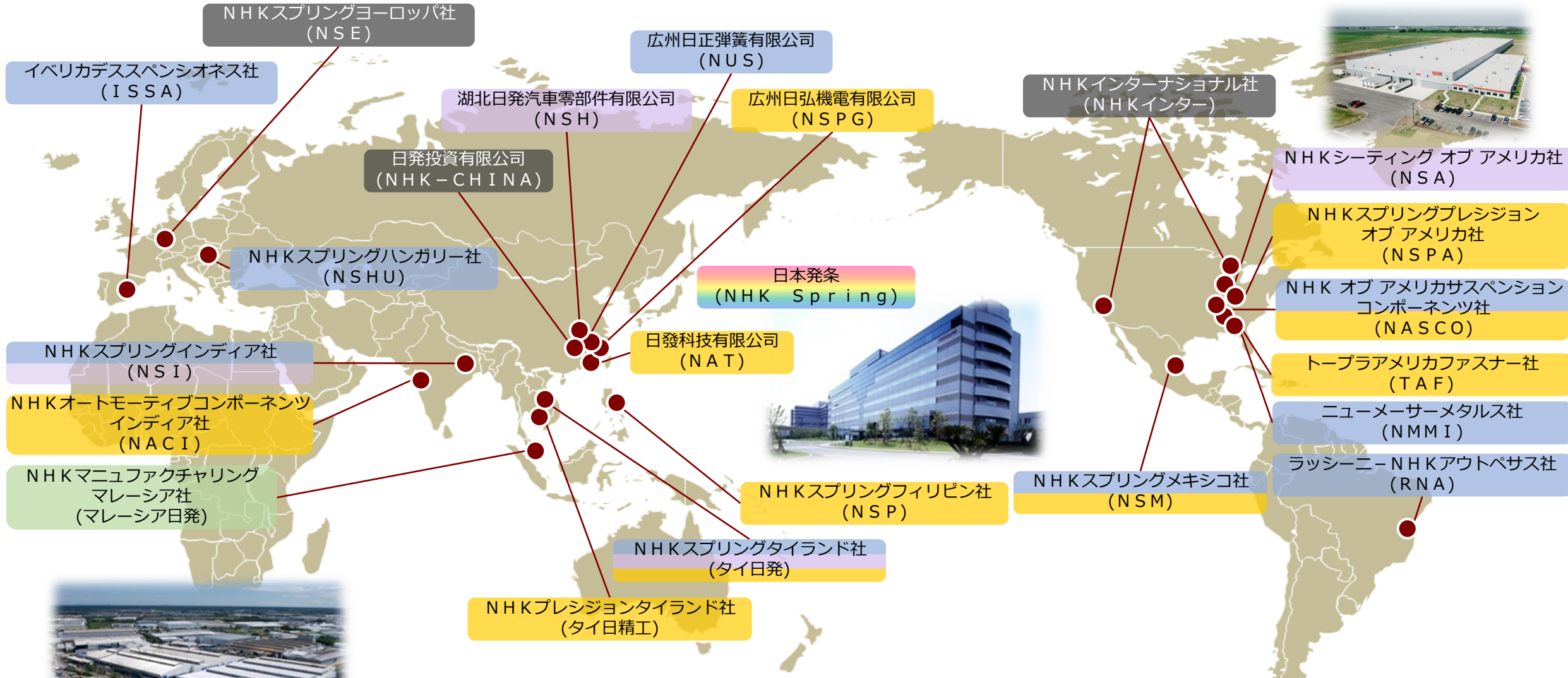
▶上記テーマごとにメンバーを専属し、24名で組織化

EV営業プロジェクトの新設

▶更なる拡販活動を展開するため、7名で組織化

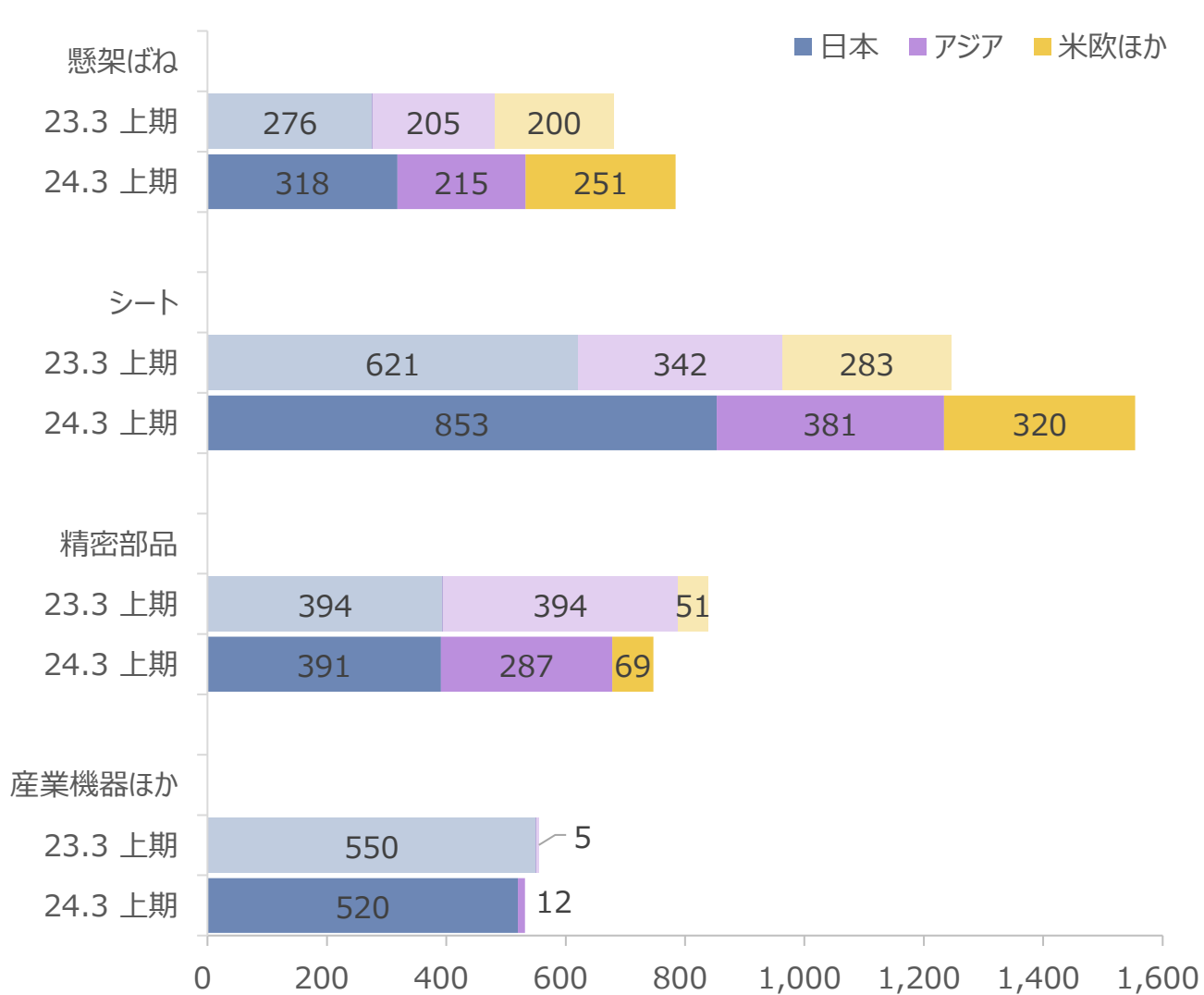
補足資料

主要海外拠点



懸架ばね	精密部品	地域統括・事業支援
シート	産業機器ほか	全製品

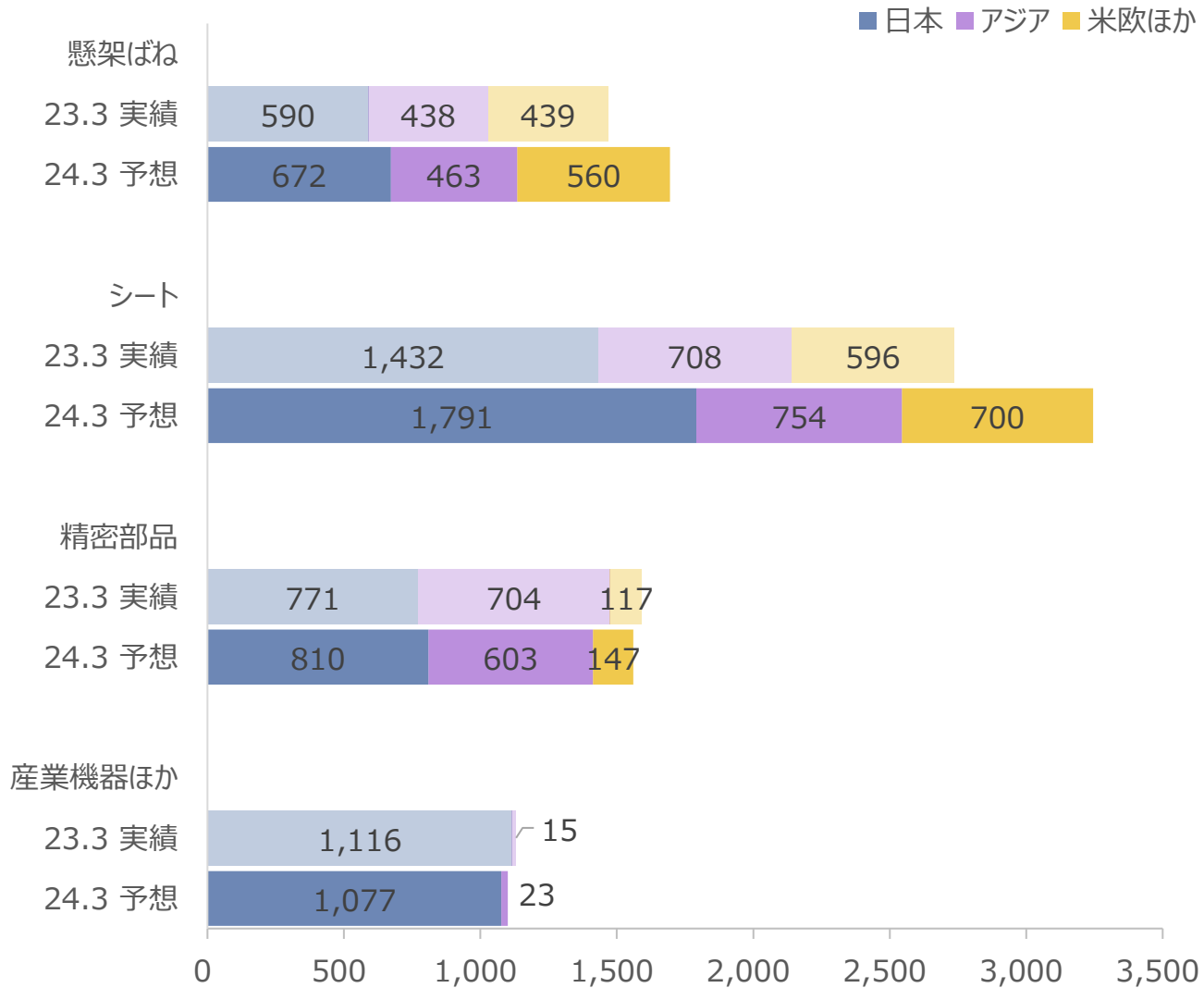
売上高の分解情報（上期）



(億円)

		日本	アジア	米欧ほか	合計
懸架ばね	23.3 上期	276	205	200	681
	24.3 上期	318	215	251	786
シート	23.3 上期	621	342	283	1,247
	24.3 上期	853	381	320	1,555
精密部品	23.3 上期	394	394	51	840
	24.3 上期	391	287	69	747
産業機器ほか	23.3 上期	550	5	-	556
	24.3 上期	520	12	-	532
合計	23.3 上期	1,842	948	534	3,326
	24.3 上期	2,084	896	640	3,621

売上高の分解情報（通期）



(億円)

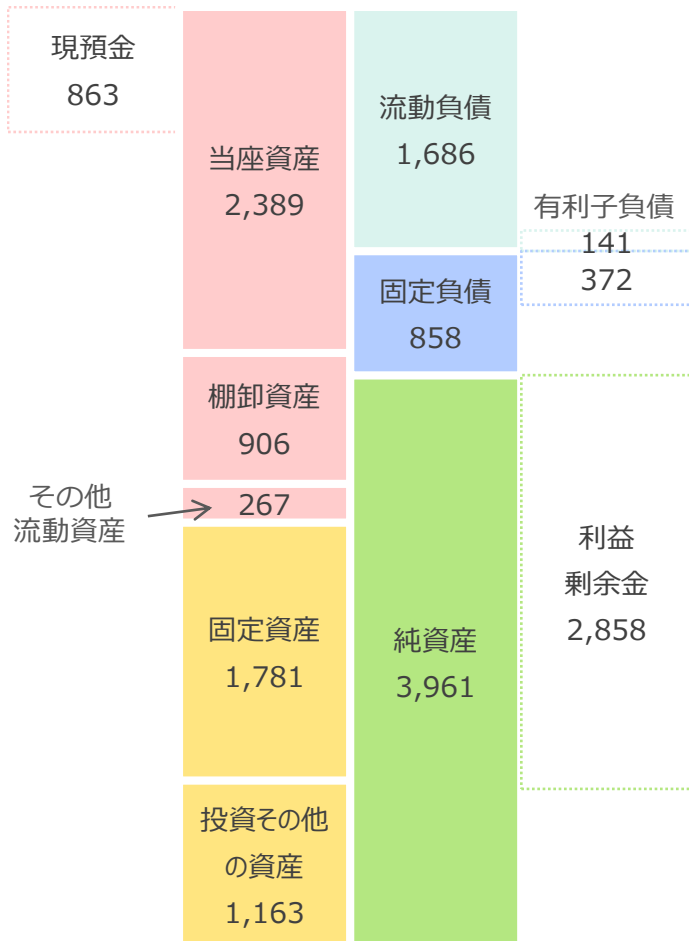
		日本	アジア	米欧ほか	合計
懸架ばね	23.3 実績	590	438	439	1,467
	24.3 予想	672	463	560	1,695
シート	23.3 実績	1,432	708	596	2,736
	24.3 予想	1,791	754	700	3,245
精密部品	23.3 実績	771	704	117	1,592
	24.3 予想	810	603	147	1,560
産業機器ほか	23.3 実績	1,116	15	-	1,131
	24.3 予想	1,077	23	-	1,100
合計	23.3 実績	3,910	1,867	1,153	6,932
	24.3 予想	4,350	1,843	1,407	7,600

(億円)

	20.3期 実績	21.3期 実績	22.3期 実績	23.3期 実績	24.3期 上期実績	増減額
総資産	5,326	5,607	5,880	6,060	6,507	447
自己資本	2,709	2,839	3,226	3,492	3,800	308
自己資本比率	50.9%	50.6%	54.9%	57.6%	58.4%	0.8%
現預金	745	793	921	729	863	134
有利子負債	581	697	505	500	513	13
ネットキャッシュ	164	95	416	229	350	121

24.3期上期実績

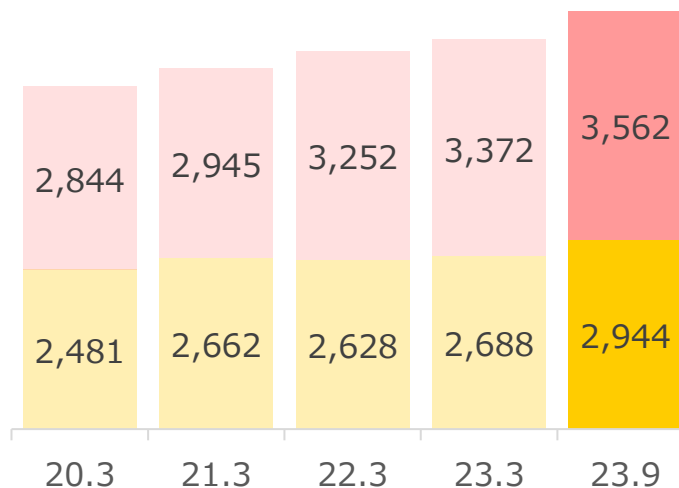
(億円)



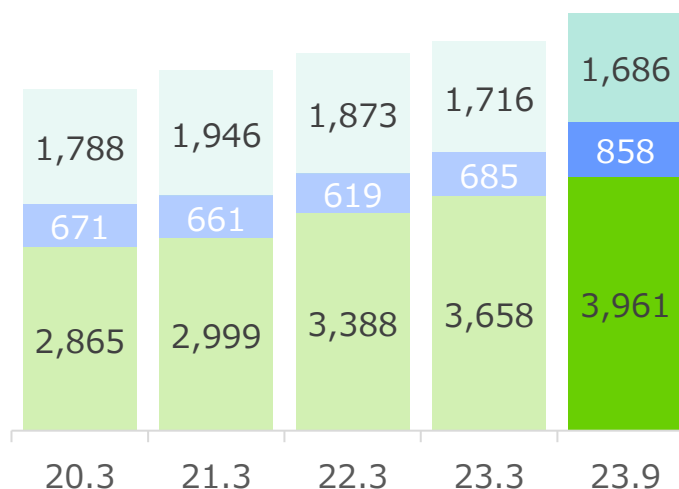
バランス・シート推移

(億円)

■ 流動資産
■ 固定資産



■ 流動負債
■ 固定負債
■ 純資産



▼資産

為替が円安に推移した影響により現金及び預金等が増加したほか、保有上場株式の時価の上昇により投資有価証券が増加。

▼負債

投資有価証券の時価の上昇に伴い繰延税金負債が増加。

▼純資産

その他有価証券評価差額金、為替換算調整勘定が増加。また、親会社株主に帰属する四半期純利益により利益剰余金が増加。

設備投資・減価償却費（事業別）

(億円)

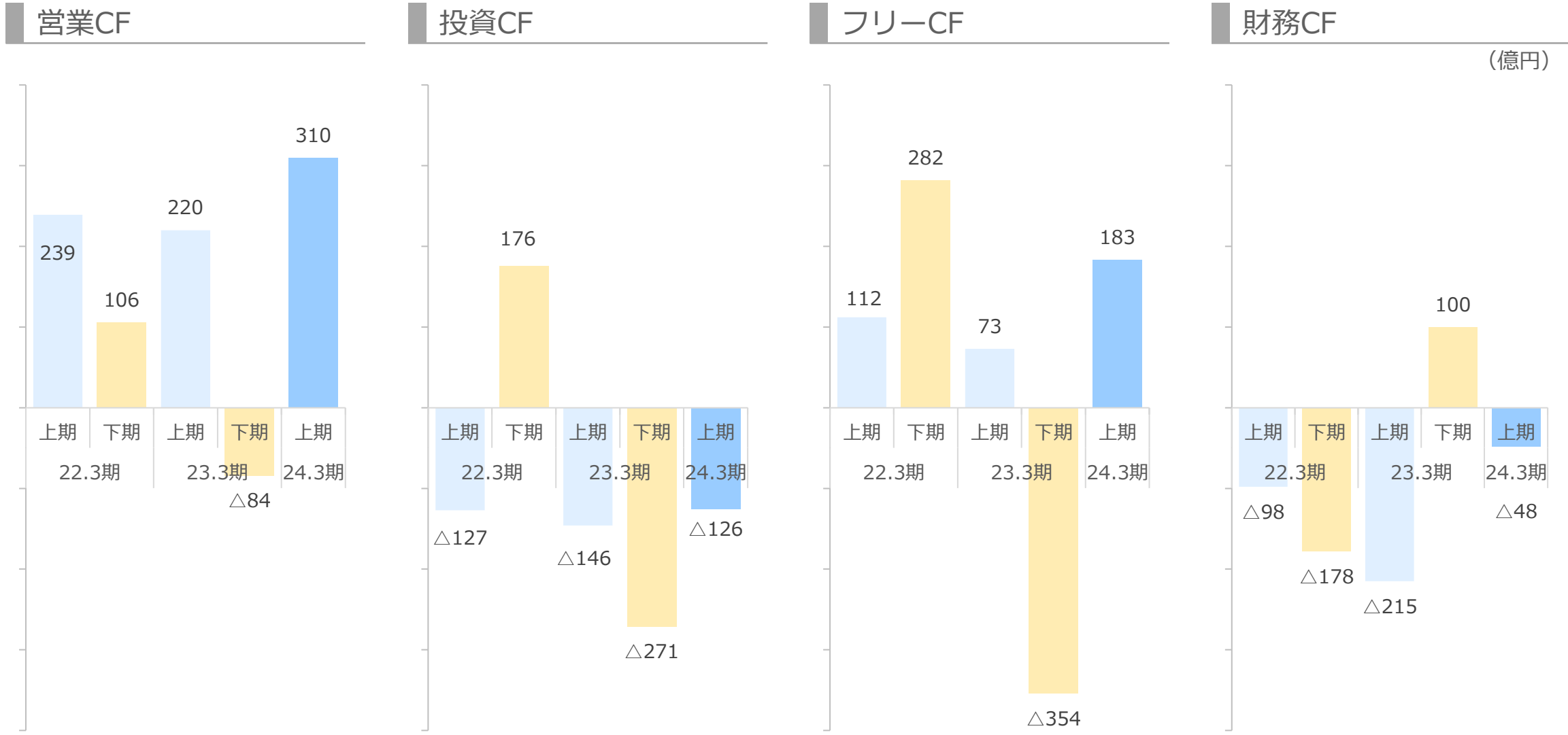
		22.3期 実績	23.3期 実績	24.3期		
				5月時点予想	今回予想	5月予想差
設備投資	懸架ばね	30	45	78	73	△5
	シート	50	46	59	58	△1
	精密部品	113	121	196	145	△51
	産業機器ほか	30	58	63	66	3
	全社共有	7	9	40	39	△1
	合計	232	280	436	381	△55
	前期比	△6.9%	20.7%	55.3%	35.7%	
減価償却費	懸架ばね	66	66	62	66	4
	シート	48	55	48	54	6
	精密部品	114	113	122	112	△10
	産業機器ほか	36	35	39	38	△1
	全社共有	17	17	25	20	△5
	合計	283	288	296	290	△6
	前期比	2.9%	2.0%	2.5%	0.4%	

設備投資・減価償却費（地域別）

(億円)

		22.3期 実績	23.3期 実績	24.3期		
				5月時点予想	今回予想	5月予想差
設備投資	日本	130	178	252	242	△10
	アジア	73	61	126	89	△37
	米欧ほか	28	40	58	50	△8
	海外計	102	102	184	139	△45
	合計	232	280	436	381	△55
減価償却費	日本	165	149	162	152	△10
	アジア	73	86	91	89	△2
	米欧ほか	44	52	43	49	6
	海外計	117	139	134	138	4
	合計	283	288	296	290	△6

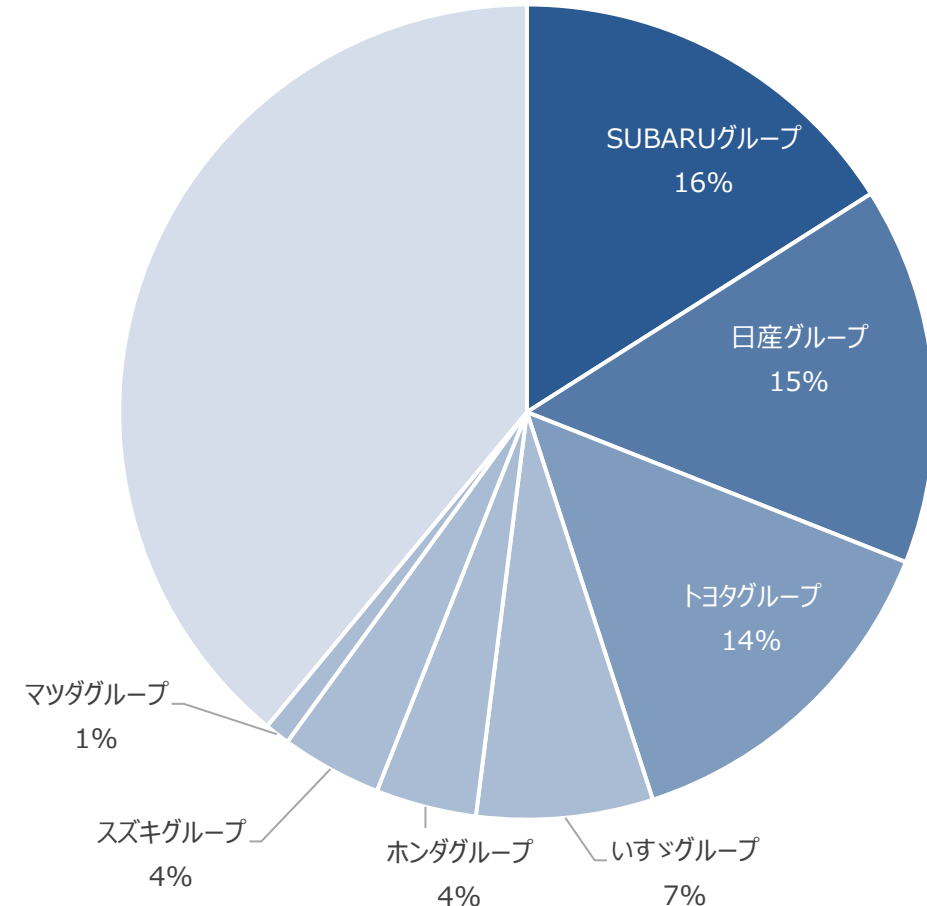
キャッシュ・フローの状況（半期ベース）



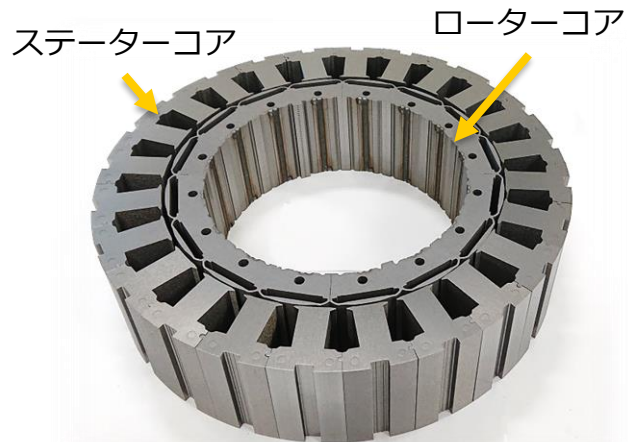
総売上高に占める主要カーメーカーへの売上比率は？

主要カーメーカー	22.3期 実績	23.3期 実績
SUBARUグループ	15%	16%
日産グループ	14%	15%
トヨタグループ	13%	14%
いすゞグループ	6%	7%
ホンダグループ	4%	4%
スズキグループ	4%	4%
マツダグループ	1%	1%
上位3社	42%	45%

(注) 比率は総売上高に対する割合



■モーターコア



当社で手がけるモーターコアは、EV、HV自動車の駆動用、または発電用モーターに使用される積層鉄心です。

0.25～0.35mmの電磁鋼板をプレスで打ち抜いて数百枚積層したもので、カシメや溶接により締結されております。

モーターコアは磁石が挿入されてモーターの回転部となるローターコアと、固定となる巻き線部のステーターコアから構成されます。

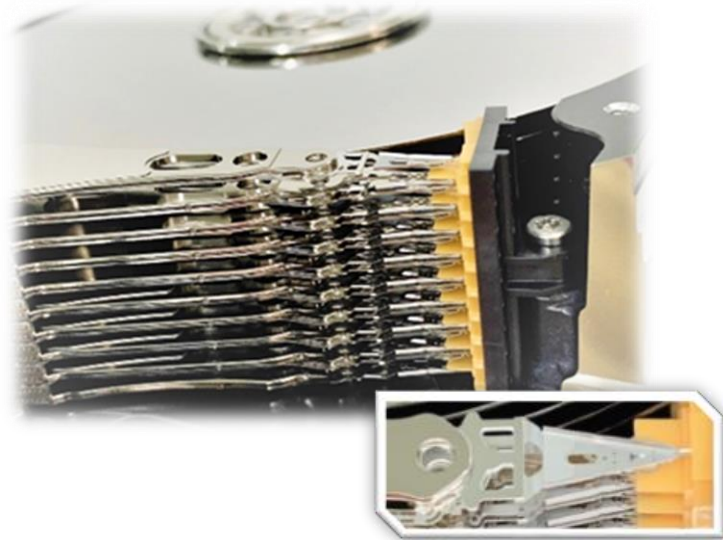
バッテリーからの電力がインバーターを介してモーターに供給され、コイルを巻き付けたステーターコアに発生する回転磁界の作用によりマグネットが組み込まれたローターコアが吸引・反発することでローターコアが高速回転します。

薄板の積層鉄心であるモーターコアは磁力線が通りやすく、より強い磁力を発生させる機能を持ちます。

モーターコアは直径200mm前後、高さ150mm前後で、当社で手がける精密プレス加工品としては比較的大きいサイズとなりますが、必要とされる製品寸法精度がミクロンレベルであり、当社で長年かけて築き上げてきた自動車用部品の精密プレス加工技術や、HDD（ハードディスクドライブ）用部品の精密プレス加工技術を駆使した、大型の超高精度プレス加工品であります。

モーターコアの生産において肝となるプレス金型は、設計～製作～メンテナンスまで一貫して自社で行っており、国内だけでなく、グローバル展開しておりますメキシコ、中国の工場でも同じ品質のモーターコアの生産が可能です。

製品紹介：HDD（ハードディスクドライブ）用サスペンション



HDD用サスペンションは、HDDの中で、ディスク上のデータを読み書きする微小部品を支える特殊ばね製品です。

現在、HDDは個々のパソコンの中に入っている数よりも、SNSや動画共有サイトなどのサービスを運営する会社のデータセンターにある数の方が多く、そこでは超大容量HDDが数十万個単位で並んでいます。

CLAタイプ*（以下CLA）のHDD用サスペンションが数多く使われており、写真の例では、HDD 1台に対しCLAが18個搭載されています。CLAは、製品先端部に組み込んだ超小型アクチュエータで、データを読み書きする微小部品を動かします。中央部に小型アクチュエータを組み込んだ従来製品のDSA*（以下DSA）に比べ、より高速に微細な動きができます。

人に例えるなら、DSAは手首まで、CLAは指先まで使う感じで、素早く細かな動きができるようになったことから、位置決め精度や速度が向上し、超大容量HDDには欠かせない製品になりました。

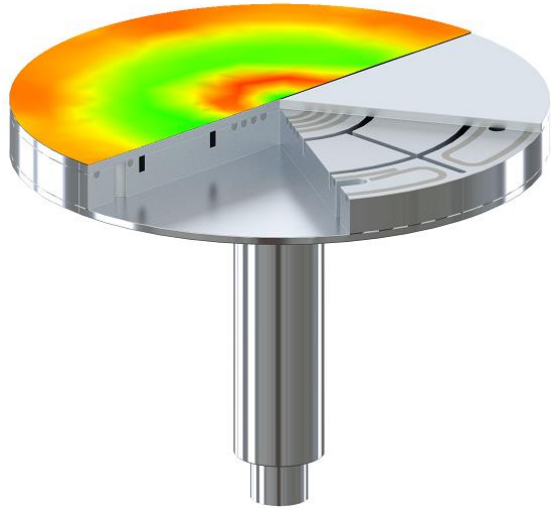
当社ではCLAを2016年1月から世界に先駆け量産化し、世界トップシェアを誇っています。

*CLA = Co-Located Actuatorの略

*DSA = Dual Stage Actuatorの略



■ 成膜装置用マルチゾーン制御ステージヒータ



■ エッチング装置用溶射付冷却板



半導体はシリコンの基板の上に導線および絶縁物が微細かつ複雑なパターンで描かれ、回路が形成されています。ニッパツの半導体プロセス部品は半導体製造の主要工程である“成膜”および“エッチング”の工程で用いられています。

ニッパツのステージヒータはCVD、ALD*などの成膜工程で広く採用されています。主にアルミ合金、ステンレスなどの金属製で、長年培ってきた高度な接合技術により、複雑な内部構造の実現が可能です。

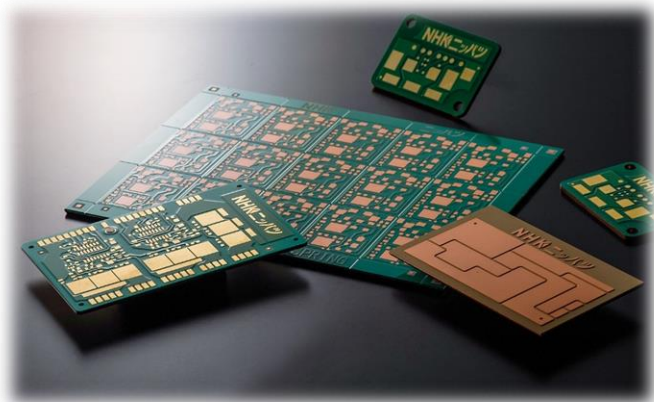
*CVD；Chemical Vapor Deposition（化学気相成長）の略

*ALD；Atomic Layer Deposition（原子層堆積）の略

ヒータエレメントの設計技術、シミュレーションのための解析技術を駆使し、複数のヒータエレメントや冷媒用チャンネル、断熱空間を配置し、均一な温度分布のみならず、部分的に数十度の範囲で差を生み出す、積極的な温度分布制御を可能にしています。

一方エッチング装置向けにおいては、冷却板と呼ばれる、プロセス中のシリコンウエハが載荷される、重要なステージ部品を製造しています。多くはアルミ合金で造られており、ヒータ同様高度接合技術を核に、材料調達から精密加工、セラミクス溶射施工までの一貫生産を強みとしています。

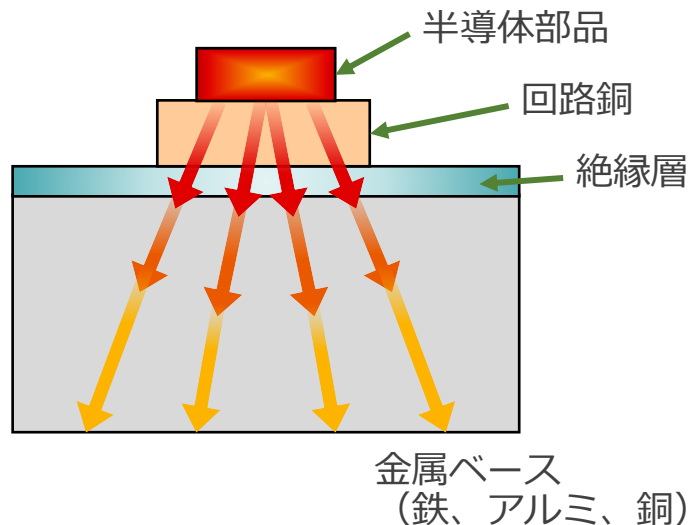
近年では、チャンバ下部でウエハを支持するヒータ、冷却板に加え、チャンバ上部に設置され、プロセスに必要なガスを供給するための部品であるシャワーヘッドの開発にも注力しており、売上を伸ばしております。



金属基板（以下IMS）は、ベースにアルミや銅などの金属板の上に絶縁層を介して回路を形成したもので、放熱性が優れているという特徴があります。その放熱性を活かして、車載用、産業用、民生用の分野で、IMS上に実装される半導体部品などが発生させる熱を効率よく逃がすという働きで使われております。

自動車分野では、電気自動車やハイブリッド車に搭載されるDC-DCコンバータや充電器モジュールなどへの採用が増えており、将来的には駆動用のインバータ回路への採用も目指しております。産業用途では、汎用インバータやエアコンのインバータ回路の他にも、再生可能エネルギーのパワーコンディショナー内部のパワーモジュールとして当社IMSが多く使用されております。

■ IMSの断面構造図



当社のIMSの特徴は、高放熱・高信頼な絶縁層の開発から製造、そしてIMSに仕立てるまでの一貫生産を行うことを強みとしております。

当社では、1980年代よりIMS開発を開始し、現在に至るまで次々と高放熱絶縁材を市場に送り出し業界をリードしております。

NHKニッパツ

- 本資料に記載している日本発条(株)の予想、計画は、将来の実績等に関する見通しであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績は、経済情勢、市場動向、為替の動向等、重要な要素の変動により、見通しとは異なる結果となり得ることもご承知下さい。
- 本資料に掲載されている事項は情報提供を目的とするものであり、投資勧誘を目的としているものではありません。
- この資料の著作権は日本発条(株)に帰属しております。
- 無断転載・複製することを禁じます。